

カンボジア国  
国家社会保障基金

カンボジア国  
社会保障制度運営のための  
ICT システム  
普及・実証・ビジネス化事業  
(SDGs ビジネス支援型)  
業務完了報告書

2022年2月  
独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

株式会社日立製作所

民連
JR
22-021

<本報告書の利用についての注意・免責事項>

- 本報告書の内容は、JICA が受託企業に作成を委託し、作成時点で入手した情報に基づくものであり、その後の社会情勢の変化、法律改正等によって本報告書の内容が変わる場合があります。また、掲載した情報・コメントは受託企業の判断によるものが含まれ、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。本報告書を通じて提供される情報に基づいて何らかの行為をされる場合には、必ずご自身の責任で行ってください。
- 利用者が本報告書を利用したことから生じる損害に関し、JICA 及び受託企業は、いかなる責任も負いかねます。

<Notes and Disclaimers>

- This report is produced by the trust corporation based on the contract with JICA. The contents of this report are based on the information at the time of preparing the report which may differ from current information due to the changes in the situation, changes in laws, etc. In addition, the information and comments posted include subjective judgment of the trust corporation. Please be noted that any actions taken by the users based on the contents of this report shall be done at user' s own risk.
- Neither JICA nor the trust corporation shall be responsible for any loss or damages incurred by use of such information provided in this report.

# 目次

巻頭写真	iii
地図	iv
図表リスト	v
用語集	vi
略語表	vi
案件概要	vii
要約	viii
第1 対象国でのビジネス化（事業展開）計画	1
1. ビジネスモデルの全体像	1
(1) 現時点で想定されるビジネスモデルの全体像	1
(2) 本ビジネスに用いられる製品・技術・ノウハウ等の概要	1
(3) 上記②の国内外の導入、販売実績（販売開始年、販売数量、売上、シェア等）	1
2. ターゲットとする市場・顧客	1
(1) ターゲットとする市場の概況	1
(2) 本ビジネスに対する現地ニーズ	1
(3) 本ビジネスの対象とする顧客層とその購買力	1
(4) 必要なインフラの整備状況	2
(5) 競合する企業/製品/サービス等の状況	2
3. 現時点で想定する実施体制	2
(1) バリューチェーン計画	2
(2) 本ビジネスの実施体制	2
4. 想定されるリスクとその対応策	2
(1) 許認可等取得の必要性	2
(2) 許認可以外のリスク対策	2
(3) 環境・社会・文化・慣習面（ジェンダー、カースト、宗教、マイノリティ等社会的弱者）の 対策、配慮	2
5. 現時点で想定する事業計画	2
(1) 収支計画	2
(2) ビジネス展開のスケジュール	2
(3) 投資額及び回収見込み時期	2
(4) 資金調達手段の見込み	2
6. 本ビジネスの提案法人における位置づけ	3
(1) 本ビジネスの経営戦略上における位置づけ	3
(2) 既存のコアビジネスと本ビジネスの関連（活かせる強み等）	3
(3) 本ビジネスの社内での検討状況	3
7. 本 JICA 事業終了後のビジネス展開方針	3
第2 ビジネス展開による対象国・地域への貢献	4

1. 対象国・地域における課題	4
2. 本ビジネスを通じた SDGs 達成への貢献可能性	4
(1) 貢献を目指す SDGs のゴール・ターゲット	4
(2) SDGs への貢献可能性	4
(3) 波及効果	4
3. JICA 事業との連携可能性	5
<b>第3 普及・実証・ビジネス化事業実績</b>	<b>6</b>
1. 本事業の目的	6
2. 本事業の成果	6
3. 本事業の実施体制	6
4. 成果の達成状況	6
5. 活動内容実績	7
(1) 活動内容	7
(2) 活動結果の実績	7
(3) 本事業の実施内容	25
(4) 本事業の成果の到達状況	25
6. 事業実施国政府機関（カウンターパート機関）の情報	25
(1) カウンターパート機関名	25
(2) 基本情報	25
(3) 事業後の機材の維持管理体制	26
7. ビジネス展開の見込みと根拠	26
(1) ビジネス化可否の判断	26
(2) ビジネス化可否の判断根拠	26
参考文献	27
商標について	27
別添資料一覧	28

# 卷頭写真



2020年1月20日(提案法人撮影)



2020年1月20日(提案法人撮影)



2020年2月12日(提案法人撮影)



2020年2月13日(提案法人撮影)



2020年2月13日(提案法人撮影)

## 地図



図 1 : カンボジア国地図

【世界地図・SekaiChizu】 <http://www.sekaichizu.jp/>

## 図表リスト

図 1 : カンボジア国地図	iv
図 2 : 案件概要図	vii
図 3 : インフォーマルセクター登録の全体の流れ	9
図 4 : 申請書フォーマット（支払者情報）_ドラフト版	10
図 5 : 申請書フォーマット（個人の基本情報）_ドラフト版	11
図 6 : 申請書フォーマット（世帯の情報）	14
図 7 : 申請書フォーマット（個人の基本情報）	14
図 8 : 登録のクロスチェック体制（登録業務における NSSF の体制）	16
図 9 : NSSF 組織構造	26
表 1 : 用語の定義	vi
表 2 : 略語表	vi
表 3 : SDGs への貢献	5
表 4 : 事業提案者の支援体制	6
表 5 : 現地での支援体制	6
表 6 : 再委託業務等の内容	6
表 7 : インフォーマルセクターの登録における要件_ドラフト版	9
表 8 : 社会保障 ICT 基盤システムに対するローカライズ作業	11
表 9 : トライアル用システムの準備作業一覧	12
表 10 : インフォーマルセクターの登録における要件 _ver1（フィードバック対応）	15
表 11 : 実施した NSSF 職員向けトライアルについて	19
表 12 : トライアルのアンケート結果	24

## 用語集

表 1：用語の定義

用語	説明
トライアル	社会保障 ICT 基盤システムの導入にあたり、社会保障 ICT 基盤システムトライアル版を用いて NSSF の業務部、システム部が運営できるかを検証するもの（企画書においては訓練と記載しているものと同様のもの）
フォーマルセクター	民間被用者・公務員向け保険でカバーされている国民
インフォーマルセクター	民間被用者・公務員向け保険でカバーされない、且つ ID-poor として認定されていないすべての国民

(提案法人作成)

## 略語表

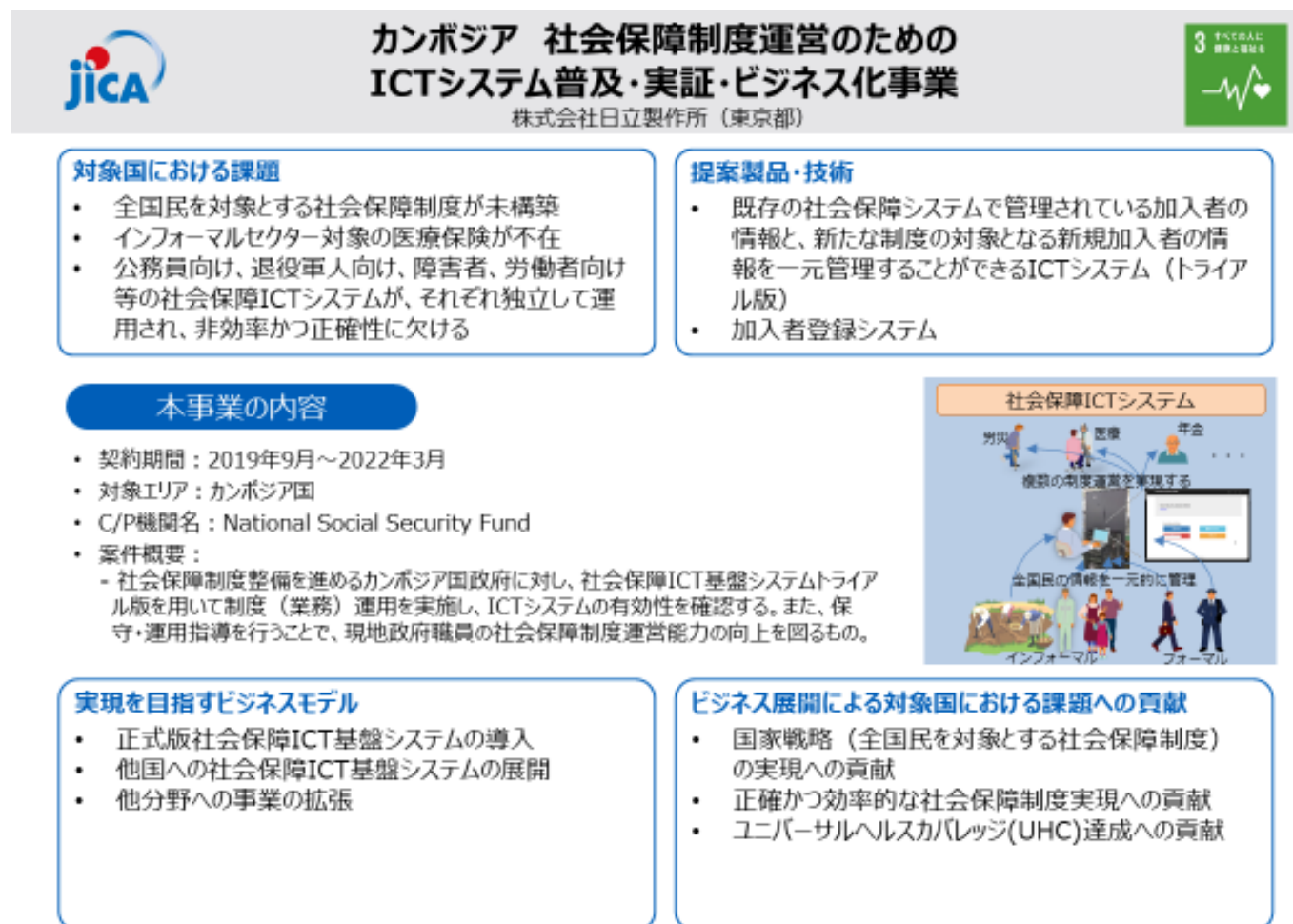
表 2：略語表

略語	正式名称	日本語名称
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
GDI	General Department of Identification	内務省配下の認証総局 ※クメール ID など国民情報を管理する主管元
IDCJ	International Development Center Japan	(株)国際開発センター ※外部人材として参画
ILO	International Labour Organization	国際労働機関
MEF	Ministry of Economy and Finance	経済財政省
MOI	Ministry of Interior	内務省
NSPC	National Social Protection Council	国家社会保障評議会
NSPPF	National Social Protection Policy Framework	国家社会保障政策枠組み
NSSF	National Social Security Fund	国家社会保障基金
SHIP プロジェクト	Social Health Insurance for the Informal Sector Population Project	カンボジア国インフォーマルセクター向け医療保険導入計画策定プロジェクト
UHC	Universal Health Coverage	ユニバーサルヘルスカバレッジ

(提案法人作成)



## 案件概要



2019年10月作成 2022年1月改定

図 2：案件概要図  
(提案法人作成)

# 要約

## I. 案件要約

1. 案件名	(和文) カンボジア国社会保障制度運営のための ICT システム普及・実証・ビジネス化事業 (SDGs ビジネス支援型) (英文) SDGs Business Verification Survey with the Private Sector for ICT System for Social Security
2. 対象国・地域	カンボジア国プノンペン市 外務省海外安全情報：レベル3(2022年1月4日時点)
3. 本事業の要約	社会保障制度運営のための ICT システムに関する普及・実証・ビジネス化事業。本事業後に社会保障 ICT 基盤システムのビジネス展開を図り、ひいてはカンボジア国の UHC (ユニバーサルヘルスカバレッジ) 達成に向けた社会保障制度整備への貢献を目指す。
4. 提案製品・技術の概要	社会保障 ICT 基盤システム すべての社会保障制度運営に係わる共通的な機能を備え、制度加入者に関する情報を一元的に管理できる ICT システム。システムプログラム及びハードウェアで構成される。
5. 対象国で目指すビジネスモデル概要	カンボジア政府は「四辺形戦略」、「国家戦略開発計画」などの開発目標を掲げ、課題の克服に取り組んでいる。外務省の策定する「対カンボジア王国国別開発協力量針」にもある通り、日本政府はこれらの課題解決に向けた同国の取組に賛同し積極的に支援する方針を立てている。なかでもカンボジア国の生活の質向上を重点目標の一つと定めており、UHC 達成にむけた保健医療・社会保障分野における取組を推進するとしている。 提案企業が保有する日本での社会保障制度を ICT の面で支えてきたノウハウを活用し、カンボジア国の社会保障制度の正確な運営に貢献していく。
6. ビジネスモデル展開に向けた課題と対応方針	課題：現地政府による正式要請に基づく案件形成 対応方針：提案企業の案件の受託
7. ビジネス展開による対象国・地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>貢献を目指す SDGs のターゲット ゴール 3：「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」 ターゲット 3.8：「すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)を達成する」</li> <li>対象国・地域への貢献 国家社会保障政策枠組み(NSPPF)において、すべての国民を対象とした医療保障制度の構築をはじめとし、社会保障制度の充実、成熟を掲げている。正確且つ効率的な制度運営に寄与する ICT システムを構築する。</li> </ul>
8. 本事業の概要	
① 目的	カンボジア国におけるインフォーマル医療保険を含めた信頼性のある社会保障制度構築に資するため、提案製品・技術の実証活動を含むビジネスモデルの検証、提案製品・技術への理解の促進
② 成果(実績)	現地 NSSF 職員が、運用マニュアルを活用したシステムトライアルを実施し、自国でのシステムオペレーションの実行可能性と有効性を実証することが出来た。
③ 活動内容	活動1：トライアル版の環境構築 活動2：トライアル版を用いたシステムオペレーション実施(実証) 活動3：事業計画の策定

# 第1 対象国でのビジネス化（事業展開）計画

## 1. ビジネスモデルの全体像

### （1）現時点で想定されるビジネスモデルの全体像

カンボジア国は、内戦終結後、過去 20 年以上に亘り順調な経済成長と貧困削減を達成してきており、2016 年 7 月には低中所得国入りを果たした。しかしながら、経済構造は依然として脆弱であり、また、都市部と地方部の格差やプノンペンにおける都市問題の深刻化といった新たな課題にも直面している。カンボジア政府は開発目標（「四辺形戦略」、「国家戦略開発計画」（NSDP）、「産業開発政策」（IDP）など）を掲げ、課題の克服に取り組んでいる。（〔対カンボジア王国国別開発協力方針〕より抜粋）。日本政府はこれらの課題解決に向けた同国の取組に賛同し積極的に支援する方針を立てている。なかでも、外務省の策定する「対カンボジア王国開発協力方針」にもある通り、日本はカンボジア国の生活の質向上を重点目標の一つと定めており、UHC（ユニバーサルヘルスカバレッジ）達成にむけた保健医療・社会保障分野における取組を推進するとしている。

上記の両国関係に加え、提案企業は日本において半世紀以上にわたり社会保障制度を ICT の面で支えてきており、業務・ICT システムのノウハウを保有している。国内のノウハウを活用することで上記の取り組みをふまえて ICT システムの面からカンボジア国の社会保障制度の正確な運営に貢献していく。

### （2）本ビジネスに用いられる製品・技術・ノウハウ等の概要

#### 【技術・ノウハウ】

提案企業には、半世紀に渡り日本の社会保障制度における ICT システムを運営（企画立案、設計、開発、運用保守）してきた実績から、社会保障制度で共通して管理すべき情報や業務などのノウハウを保有する。このノウハウを活用することで将来的な制度の拡張への効率的な対応や、正確な制度運営の実現に貢献できるだけでなく、制度改正などにも有用な各種情報の取得分析を実現できるものとなる。これにより、正確かつ効率的な社会保障制度の運営を持続可能なものとする。

### （3）上記②の国内外の導入、販売実績（販売開始年、販売数量、売上、シェア等）

1967 年から、日本の年金をはじめとする社会保障分野やその他行政サービス領域においてその業務に沿った ICT システムによって支えてきた実績がある。

販売数量、売上、シェア等については企業機密情報につき非公表

## 2. ターゲットとする市場・顧客

### （1）ターゲットとする市場の概況

カンボジア国では、公務員向けの年金及び民間企業の被用者向け労災と医療保険が既に実施されている。[Expanding social health protection in Cambodia] フォーマルセクターを対象とした制度の被用者は 2016 年時点で約 26 万人、2017 年時点で約 60 万人、2019 年には約 170 万人となっている。今後、全国民を対象とした社会保障制度が施行されれば、その対象者は 1,630 万人（2018 年 IMF 推定値）となる見込みである。全国民に向けての制度運営が求められるため、効率的な業務運営を実現する ICT システムを早期に求めている。

### （2）本ビジネスに対する現地ニーズ

本事業開始前の時点において、各制度の加入者情報を正しく把握、管理する ICT システムが必要である旨を確認済である。2020 年には今後すべての社会保障制度の運営が一元化され、まさに必須課題となっている状況である。

### （3）本ビジネスの対象とする顧客層とその購買力

現状、カンボジア国は、国連及び世界銀行の所得階層別分類において貧困国に分類されていること

からもわかる通り、経済レベルが低い。

#### **(4) 必要なインフラの整備状況**

カンボジア国では、近年発電所の設置により発電量は伸びており、電力供給量は安定してきている。また、2002年にデータ市場が自由化されて以来、インターネット利用者及び携帯電話加入者数が急激に伸びており、通信環境は年々改善されているといえる。提案企業の事前調査において、NSSF本部にはIT部門があり、サーバールームが設置され、支部とオンラインで情報連携する等、ICTシステムを業務に用いるためのインフラは整備されていることが確認されている。

#### **(5) 競合する企業/製品/サービス等の状況**

企業機密情報につき非公表

### **3. 現時点で想定する実施体制**

#### **(1) バリューチェーン計画**

企業機密情報につき非公表

#### **(2) 本ビジネスの実施体制**

企業機密情報につき非公表

### **4. 想定されるリスクとその対応策**

#### **(1) 許認可等取得の必要性**

提案ビジネスの展開にあたって、特定の活動範囲内であれば許認可取得は必要ないことを確認済みである。しかし当範囲を超える場合、提案企業又はその委託先企業は、必要な商業登録や、情報通信技術総局又は郵政電気通信省に対するICT事業者証明の申請が必要となる場合がある。様々な法制度を整備しようとしているカンボジア国の現状を意識し、動向を注視する。

#### **(2) 許認可以外のリスク対策**

カンボジア国では、個人情報に対して一定の法的保護が及ぶが、具体的基準、求められる手続きなどを定める法令は存在しない。しかし2021年1月の内務省発表によると、政府が収集した個人情報の保護についての政令の第一案が起草され関係者で検討されたとのことである。具体的な制定の見通しなどは明らかではないが、引き続き注視する。

#### **(3) 環境・社会・文化・慣習面（ジェンダー、カースト、宗教、マイノリティ等社会的弱者）の対策、配慮**

カンボジア国ではフンセン政権が長期継続しており、政情は安定している。社会保障政策についても、フンセン首相をトップにNSPCが形成され、推進されている。政変が生じた場合には注視が必要である。

一方で、カンボジア国では、義務教育の未達、教育制度未整備による高度人材不足がある。エンジニアや管理職人材が少ない。無償資金協力で社会保障ICT基盤を導入した後、独自に運用保守を実施するために必要な人材の教育を支援する必要があると考える。

### **5. 現時点で想定する事業計画**

#### **(1) 収支計画**

企業機密情報につき非公表

#### **(2) ビジネス展開のスケジュール**

企業機密情報につき非公表

#### **(3) 投資額及び回収見込み時期**

企業機密情報につき非公表

#### **(4) 資金調達手段の見込み**

企業機密情報につき非公表

**6. 本ビジネスの提案法人における位置づけ**

**(1) 本ビジネスの経営戦略上における位置づけ**

企業機密情報につき非公表

**(2) 既存のコアビジネスと本ビジネスの関連（活かせる強み等）**

企業機密情報につき非公表

**(3) 本ビジネスの社内での検討状況**

企業機密情報につき非公表

**7. 本 JICA 事業終了後のビジネス展開方針**

企業機密情報につき非公表

## 第2 ビジネス展開による対象国・地域への貢献

### 1. 対象国・地域における課題

カンボジア経済は、2011年以降7%の成長を続け、南部経済回廊の中核を成し、同国の発展はASEAN経済共同体の安定と繁栄には不可欠となっている。また、地域経済統合と連携促進のため、同国の重要性は高まっている。今後もカンボジア国が高い経済成長を維持するには、より質の高い労働力の確保が大きな課題である。現在、カンボジア経済は労働市場の半数以上を占めるインフォーマルセクター労働者が従事するシャドーエコノミーに依存している。よって、インフォーマルセクター労働者及びその被扶養者の社会保障を充実する事は、健康で質の高い労働力及び生産力の増強に繋がり、ひいてはカンボジア国の更なる経済社会発展への重要な鍵だと考えられる。しかし、現在インフォーマルセクター労働者とその扶養家族向けの医療保障制度の構築は未だ成されておらず、インフォーマルセクター人口は不安定な雇用形態の下、ヘルスリスクに直面した際、医療支出による家計への負担は大きく、脆弱な立場に置かれたままとなっている。

そのため、カンボジア政府は社会保障制度構築にかかる基本方針として国家社会保障政策枠組み(NSPPF)を策定し、2017年3月に議会で承認された。この中で、すべての国民を対象とした医療保障制度を構築し、UHCを目指すと言明し、且つ2025年までにインフォーマルセクター向け医療保険(インフォーマルセクター労働者及びその被扶養者を対象)を導入したいという強い意志を示している。

また、日本政府はSDGsへの貢献を鑑み2015年にUHCの推進支援を日本の国際保健外交戦略における重点課題とし、これを受け外務省は対カンボジア国別開発協力方針の中でUHC達成にむけた保健医療・社会保障分野における取組の推進を明示している。

### 2. 本ビジネスを通じたSDGs達成への貢献可能性

#### (1) 貢献を目指すSDGsのゴール・ターゲット

ゴール 3:

「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」

ターゲット 3.8:

「すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)を達成する」

#### (2) SDGsへの貢献可能性

上記1. 対象国・地域における課題に記載のとおり、カンボジア国では、UHC達成へ向けインフォーマルセクター向け医療保険を含む社会保障の整備に意欲を示しているが、確実にUHCを達成するためにはそのゴールを明確にし、離職率が高く経済状態が変化しやすいカンボジア国の現在の状況下においてもインフォーマルセクター人口を含めた全国民を社会保障でカバーしていく必要がある。カンボジア国には、ICT技術による統合された住民の情報管理システムが存在せず、正確で信頼性の高い情報収集・管理とそれに伴う人材育成が課題となっている。このような状況下、確実かつ効率的な方法である。これによって、インフォーマル医療保険を含めた全国民を一意に把握し、整備が必要なデータの対象者の割合の具体的な理解が可能になる。

#### (3) 波及効果

他方、提案企業が独自に開発したイノベーティブなICT技術によって、上質かつ信頼性の高い情報管理・運営の達成に貢献する。更に、これらを達成する過程で、ICTシステム導入に伴う研修も実施するため、職員のICTシステム運用技術の向上にも貢献することができる。

ゴール 17:

「持続可能な開発のための実現手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」

ターゲット 17.18:

「2020年までに、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる」

表 3 : SDGs への貢献

① 投入するリソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品：社会保障 ICT 基盤システムトライアル版及びその導入時研修教材、機材オペレーションマニュアル</li> <li>教材開発、活用ノウハウ</li> </ul>
② SDGs 貢献に向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>カンボジア国の現状確認調査</li> <li>製品開発と導入</li> <li>医療保険制度加入対象者をはじめとした被保険者情報の登録</li> <li>機材オペレーションマニュアルと登録研修カリキュラムの作成</li> <li>NSSF 職員に対する導入時研修の実施</li> </ul>
③ 期待できる短期的効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール 3 : 「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」 ターゲット 3.8 : 「すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)を達成する」 NSPPF において、すべての国民を対象とした医療保障制度の構築をはじめとし、社会保障制度の充実、成熟を掲げている。正確且つ効率的な制度運営に寄与する、国民を一意に把握し社会保障制度の運営に必要な情報を管理するシステムを構築する。</li> <li>ゴール 17 : 「持続可能な開発のための実現手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」 ターゲット 17.18 : 「2020 年までに、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる」</li> </ul>
④ 期待できる中長期的効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>NSSF 職員の ICT システムを用いた業務ノウハウを保有する職員の数が増加し、NSSF 職員の ICT 技術が強化される。</li> </ul>

### 3. JICA 事業との連携可能性

2016 年 9 月に JICA から公示された「インフォーマルセクター向け医療保険導入計画策定プロジェクト」では、全人口の 6 割以上を占めるインフォーマルセクターを対象とした医療保険制度案が策定され、2019 年度よりその実証調査を技術協力プロジェクトとして行うことが提案されていた。

### 第3 普及・実証・ビジネス化事業実績

#### 1. 本事業の目的

カンボジア国におけるインフォーマル医療保険を含めた信頼性のある社会保障制度構築に資するため、提案製品・技術の実証活動を含むビジネスモデルの検証、提案製品・技術への理解の促進、無償資金協力での活用可能性の検討を通して、事業計画が策定される。また、本事業にて全国民の情報を正確に管理できる社会保障 ICT 基盤システムの有効性を検証し、カンボジア政府の政策決定者の ICT システムの有効性に対する理解を醸成する。

#### 2. 本事業の成果

現地 NSSF 職員が、運用マニュアルを活用したシステムトライアルを実施する。これにより自国でのシステムオペレーションの実行可能性と有効性を検証することで、今後のカンボジア国の社会保障システム構築への足がかりとする。社会保障制度運営に共通した情報を一元管理する仕組みを導入することで、政府職員自身がその仕組みを用いてより効率的かつ制度に従って正しく業務を実施できることを目指す。更に、本事業でカンボジア政府の政策決定者の ICT システムの有効性に対する理解を醸成し、NSSF の業務実施能力向上を目指す。

- ① 社会保障 ICT 基盤システムトライアル版システムプログラムの導入  
 ※ハードウェアが導入され、そこにトライアル版が構築され、現地 NSSF 職員がトライアルを実施できる状態となる
- ② カンボジア政府の自立的制度運営のための能力向上を目的とした運用マニュアルの作成  
 ※作成したマニュアルを用いて一部の現地 NSSF 職員に対し研修を実施し、トライアルを実施する。

#### 3. 本事業の実施体制

事業提案者の支援体制

表 4：事業提案者の支援体制

支援体制	役割分担
社会保障 ICT 基盤システムの開発部門	日本国内における社会保障制度、システム、名寄せ処理等に関するノウハウ提供等の技術支援の実施

現地での支援体制

表 5：現地での支援体制

支援体制	役割分担
現地庸人	現地庸人(通訳手配)、車両の手配、現行システムの運用調査(現行マニュアル調査)などの実施

再委託業務等の内容

表 6：再委託業務等の内容

支援体制	役割分担
現地再委託	①事業計画策定に係る現地法令調査(著作権・知的財産権・特許権・瑕疵担保責任・個人情報保護管理・会社法・許認可・税制関連等)
	②市場調査(現地企業へのニーズ聞き取り調査)

#### 4. 成果の達成状況

成果 1： トライアル版の環境構築

<達成状況>

- ・ カンボジア国に適合した社会保障 ICT 基盤システムトライアル版を NSSF にセットアップを実施し、すべての機能が問題なく動作することを確認した。



成果 2： トライアル版を用いたシステムオペレーション実施（実証）

＜達成状況＞

- ・ 全国民の情報を正確に管理できる社会保障 ICT 基盤システムの有効性を検証することができ、カンボジア政府職員が業務マニュアルを活用することですべての職員が同一のレベルで社会保障 ICT 基盤システムを運用できることが確認できた。
- ・ 全国におけるインフォーマルセクターの登録方法をトライアルによって検証ができた。これにより UHC 実現に向けた準備が整った。
- ・ NSSF、NSPC の政策決定者に対して ICT システムの有効性に対する理解を醸成できた。

成果 3： 事業計画の策定

＜達成状況＞

- ・ 上記の成果 1、成果 2 の結果から、社会保障 ICT 基盤システムがカンボジア国で全国民を対象とした社会保障制度を運営していくにあたり有効であることが確認できた。この結果をもとに今後の本格導入に向けて、上位の意思決定機関に対して NSSF から申請することで合意を得た。

## 5. 活動内容実績

### （1）活動内容

＜成果 1 に係る活動＞

活動 1－1：NSSF 職員（IT 部門、業務部門）のシステム操作／運用／保守に係る訓練に必要なマニュアル及び研修プログラムの作成

活動 1－2：トライアル版のシステムプログラム調達及び適合調査

活動 1－3：機材調達及び ICT システムのセットアップ

＜成果 2 に係る活動＞

活動 2－1：システムオペレーションの実施と改善

活動 2－2：NSSF 職員（IT 部門、業務部門）のシステム操作／運用／保守に係る技術向上の検証

活動 2－3：トライアル版の現地適合性を検証し有用性、優位性を評価

＜成果 3 に係る活動＞

活動 3－1：事業計画案作成のための調査と事業計画案の作成

活動 3－2：実証結果に基づくビジネスモデルの再検討及び事業計画案の見直し

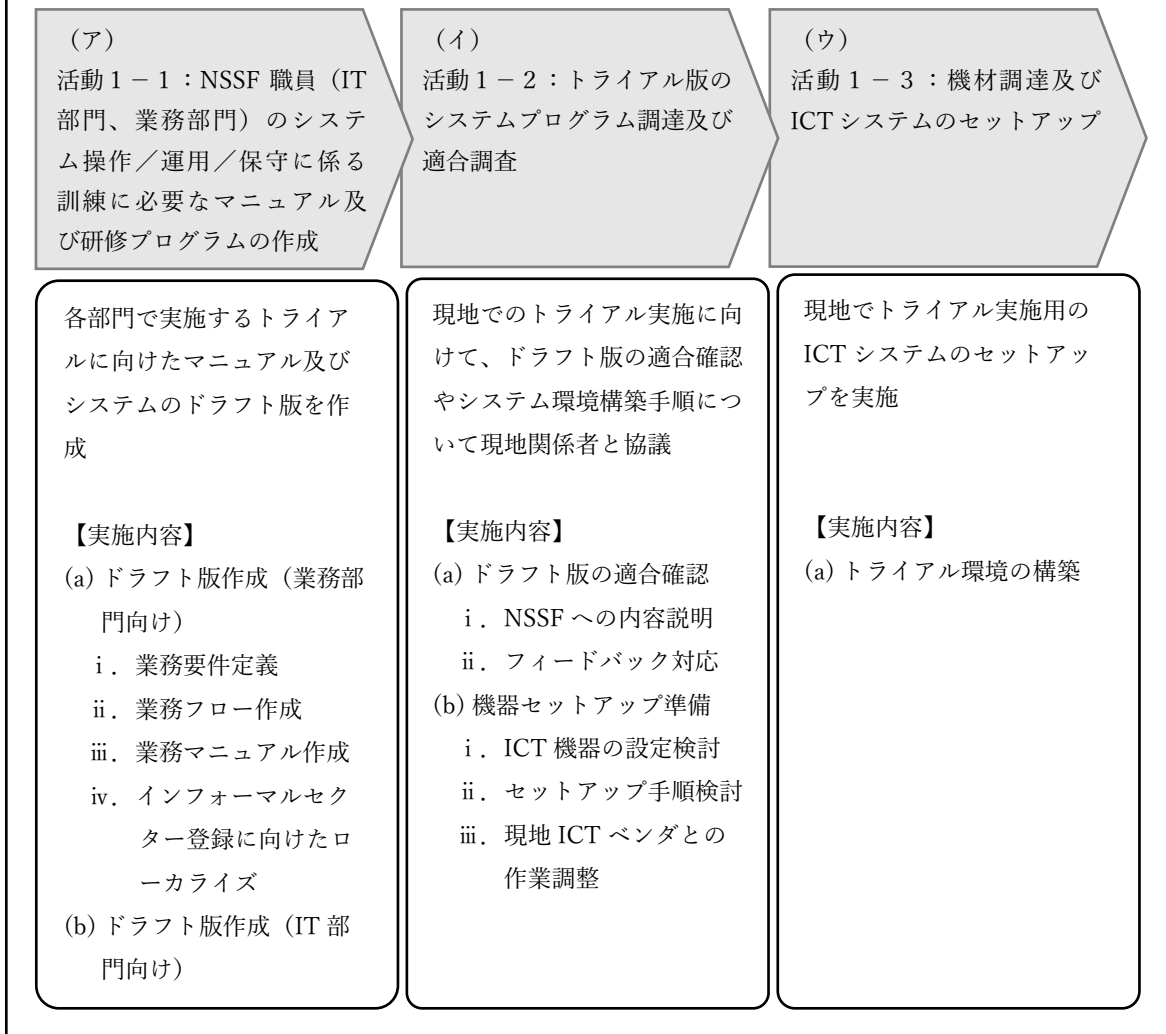
活動 3－3：事業計画の策定

### （2）活動結果の実績

①成果 1 に係る活動

成果 1 に係る活動としては以下の作業を実施した。

成果 1： トライアル版の環境構築



各作業で実施した内容について次に記載する。

ア) 活動 1-1：NSSF 職員（IT 部門、業務部門）のシステム操作／運用／保守に係る訓練に必要なマニュアル及び研修プログラムの作成

(a) NSSF 業務部門を対象とするトライアルに向けた準備

業務部門は適用部門、給付部門及び政策部門の職員を対象にしたトライアルの準備を実施した。作業として「i. インフォーマルセクターの登録における要件定義（ドラフト版）」、「ii. 業務フローの作成（ドラフト版）」、「iii. 業務マニュアルの作成（ドラフト版）」及び「iv. インフォーマルセクター登録に向けたローカライズ」を実施した。

(i) インフォーマルセクターの登録における要件定義（ドラフト版）

JICA が以前から支援してきたインフォーマルセクター医療保険制度導入プロジェクトとの整合性を担保するため、SHIP プロジェクトの報告書 [カンボジア国インフォーマルセクター向け医療保険導入計画策定プロジェクトファイナルレポート, 2018] と合わせて、外部人材として IDCJ が参画した上で登録における要件を整理した。

カンボジア国の全国民に制度を展開する上で、全国民を一度に登録することは現

実的ではないため、地域ごとにインフォーマルセクターとして登録すべき対象者を事前に抽出し、登録する方法とした。これにより加入進捗率の把握が可能になるため、より効率的な登録が可能になる。

登録作業における全体的な流れを大きく2つのStepで整理した。Step1では、まず Residential Book に登録されている国民の情報を電子化し、電子化されたデータと NSSF に登録されているフォーマルセクターのメンバー情報を突合することでインフォーマルセクターとして登録すべき対象者を抽出する。次に Step2 では対象となる国民が NSSF 支部の窓口で申請書・本人確認書類を提出し登録の手続きを行う流れとなる。本事業のトライアル範囲としては Step2 の登録業務をスコープとして登録部門職員のトライアルプログラムを作成した。

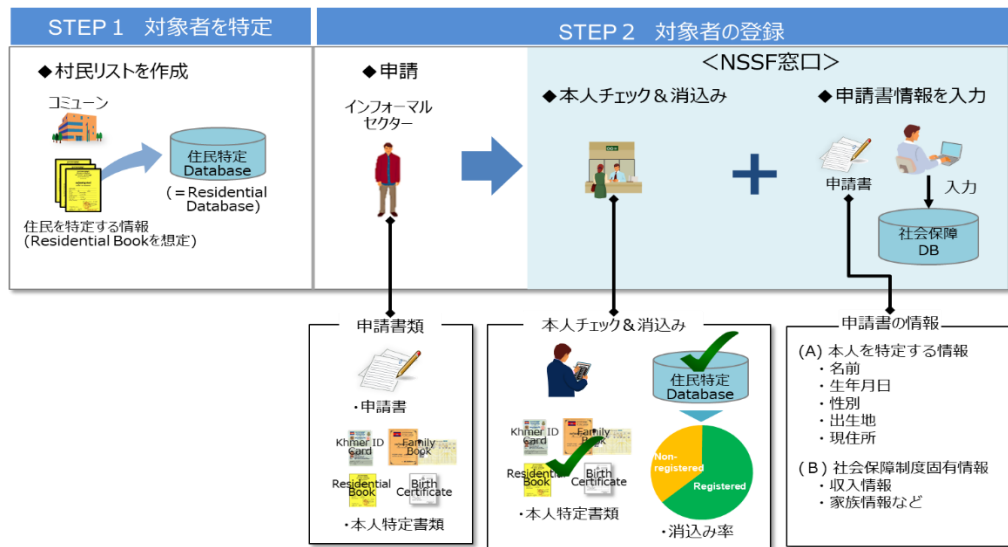


図 3：インフォーマルセクター登録の全体の流れ  
(提案法人作成)

登録時に国民が提示する本人確認書類は、SHIP プロジェクトで整理された次の4点 ① Birth Certificate、②Residential Book、③Khmer-ID カード、④Family Book [カンボジア国インフォーマルセクター向け医療保険導入計画策定プロジェクトファイナルレポート、2018]とした。この本人確認書類の情報を用いて個人の基本情報を登録する。

インフォーマルセクターにおいては子供など収入のない国民も対象となるため、SHIP プロジェクトでは社会保険方式を採用することを前提としていたことから、世帯の中で支払の代表者と、保険料の支払方法を情報として管理する必要がある。申請書のフォーマットは現行の NSSF で使用している申請書に基づき、インフォーマル特有の情報として支払方法を記入する欄を追加し、支払者情報(支払者の名前、支払方法など)を登録する。

カード発行については NSSF 支部でプラスチック製の NSSF-ID カードは発行できないと想定していたため、登録完了後にまずは紙製の仮 NSSF カードを一時的に発行するとして。後日、仮カードと引き換えにプラスチック製の NSSF-ID カードを渡す運用で整理した。

表 7：インフォーマルセクターの登録における要件\_ドラフト版

No.	登録に必要な観点	整理した要件 (ドラフト版)
1	登録の対象者の抽出方法	・ Residential Book に登録されている世帯単位
2	登録場所	・ NSSF 支部

3	本人確認書類	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 以下 4 点 <ul style="list-style-type: none"> <li>① Birth Certificate (出生証明書)</li> <li>② Residential book (世帯登録簿)</li> <li>③ Khmer-ID カード (15 歳以上が所有する国民 ID)</li> <li>④ Family book (家族登録簿)</li> </ul> </li> </ul>
4	登録申請書のフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個人別の申請フォーマット <ul style="list-style-type: none"> <li>① 支払者情報 (支払者の名前、支払方法など)</li> <li>② 個人の基本情報</li> </ul> </li> </ul>
5	カード発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本カード(プラスチック)発行されるまでの間、使用できる仮カードを登録完了時に渡す。</li> </ul>

(提案法人作成)

*Unofficial information*

**Kingdom of Cambodia  
Nation Religious Kind**

**INSURED INFORMATION [PAYMENT INFORMATION]**

No. .... FOR OFFICE USE ONLY

1. Number of Applicants:   1  

2. Payer's name :   ចាន់ត្រា អ៊ិន  

3. Payer's name in Latin :   CHANTRA HEN  

4. Payment methods:  
Please select the payment method you want to use (only one method).

(1) Cash

(2) Bank Transfers

Account Number: .....

Bank Name : .....

Bank Country : .....

Bank City : .....

(3) Mobile Payments(Ming)

Account Number : .....

Mobile phone number: .....

図 4 : 申請書フォーマット (支払者情報) \_ドラフト版  
(提案法人作成)

*Unofficial information*

**Kingdom of Cambodia  
Nation Religious Kind**

**INSURED INFORMATION [BASIC INFORMATION]**

No. .... ( ) FOR OFFICE USE ONLY

NSSF-ID

**A. Personal Information**

1. Last name :..... 2. First name :.....

2. Last name in Latin :..... CHANTRA First name in Latin :..... HEN

3. Date of Birth :..... 01/01/1998

4. Sex :..... Male

5. Place of birth

House No :..... 11

Street :.....

Village/Group :..... 8

Commune :..... ក្រុង

Khan/District :..... ខណ្ឌ

Province/City :..... ភ្នំពេញ

6. Father's name :..... ឈ្មោះ

7. Father's name in Latin :..... PHN SOPHAN

8. Mother's name :..... ឈ្មោះ

9. Mother's name in Latin :.....

10. Current Address

House No :..... 11

Street :.....

Village/Group :..... 8

Commune :..... ក្រុង

Khan/District :..... ខណ្ឌ

Province/City :..... ភ្នំពេញ

Residential No. (Residential book) :..... R00001

11. Khmer ID

I have Khmer ID

I don't have Khmer ID

Supporting Documents FOR OFFICE USE ONLY

(Required)

Residential book

Birth Certificate

(Other)

Family book

Khmer ID Card

**図 5 : 申請書フォーマット (個人の基本情報) \_ドラフト版  
(提案法人作成)**

- (i) 業務フローの作成 (ドラフト版)
  - Step1 (対象者の特定)、Step2 (NSSF 支部で対象者の登録) の全体業務の一連の流れを可視化するため業務フローを作成した。
- (ii) 業務マニュアルの作成 (ドラフト版)
  - 全国の NSSF 職員が同じレベルで作業が実施できることを目的に、視覚的に手順が理解できるような業務マニュアル (英語) を作成した。
  - a. 登録業務マニュアル (ドラフト版)
    - 作業手順及び作業時のシステム画面や作業の様子の図示したマニュアルを作成した。
  - b. 給付業務マニュアル
    - 社会保障サービスにおける給付時には個人の情報を確認した後に資格確認を実施する。これらの一連の作業を、1. 基本情報の確認、2. 給付の資格確認、3. 保険料払い履歴確認といった 3 つの手順に分類し、社会保障 ICT 基盤システムでの運用方法のマニュアルを作成した。
- (iii) インフォーマルセクター登録に向けたローカライズ
  - 社会保障 ICT 基盤システムトライアル版に対し、ここまで整理した業務フローなどの要件をもとに、今回の実証で必要な機能を洗い出して追加するローカライズ作業を実施した。

**表 8 : 社会保障 ICT 基盤システムに対するローカライズ作業**

No.	機能	目的	実施内容
1	Residential Book 電子化アプリケーション	インフォーマルセクター向け医療保険導入に向け、Residential Book をもとに住民情報を電子化する	簡単に Residential Book を登録する作業が実施できるような登録機能を検討し、アプリケーション機能を追加
2	インフォーマルセクター向け医療保険加入者登録アプリケーション	インフォーマルセクター向け医療保険制度を運営するための必要な情報を入力する	整理した業務フローをもとに登録画面の機能検討を行い、アプリケーション機能を追加

3	社会保障に関する統計機能	政策決定者の社会保障 ICT 基盤システムの有効性に対する理解を醸成していただくため、社会保障における情報の利活用を行う	社会保障に関する情報の統計分析を行うデモンストレーションを作成
---	--------------	--	---------------------------------

(提案法人作成)

(b) NSSF IT 部門を対象とするトライアルに向けた準備

NSSF IT 部門に対するトライアルの準備としては、「トライアル用システムの準備」と、「トライアル実施内容の検討」の作業を行った。

(i) IT 部門向けトライアル用システムの準備

トライアル用システムの準備としては、以下の作業を実施した。

表 9：トライアル用システムの準備作業一覧

No.	作業項目	目的	実施内容
1	社会保障 ICT 基盤システムトライアル版の準備	被保険者の情報を一意に管理できる仕組みの有効性を検証するため	社会保障 ICT 基盤システムトライアル版データベースのローカライズ (a)
2			重複登録を排除する機能(名寄せ機能)の有効性を検証する方法の検討 (b)
3	トライアルで利用する ICT 機器の説明資料作成	NSSF へ本実証で配備する機器について理解をしていただくため	ICT 機器構成に関する説明資料の作成 (c)

(提案法人作成)

各作業内容についての詳細を以下に記載する。

- a. 社会保障 ICT 基盤システムトライアル版データベースのローカライズ  
 社会保障 ICT 基盤システムトライアル版のデータベースのローカライズを実施するため、現行 NSSF システムで管理している被保険者情報のサンプルデータや現行のデータベース定義の提供を頂いた。提供して頂いた情報をもとに、ローカライズを実施し、トライアルを行うために現行の被保険者情報を社会保障 ICT 基盤システムトライアル版へデータ移行を行う準備を行った。
- b. 登録データの重複を排除する機能の有効性を検証する方法の検討  
 社会保障各制度の被保険者情報を一意に管理する仕組みを実現するため、社会保障 ICT 基盤システムトライアル版の「名寄せ機能」の有用性について検証を行うこととした。
- c. ICT 機器構成に関する理解の醸成  
 本実証で導入する機器について、正しく NSSF IT 部門の職員の理解を次の観点で醸成した。
  - ・ 本格導入時と今回導入機器の位置づけ(目的: 本格導入時における導入機器の位置づけを理解)
  - ・ 導入機器の構成(目的: IT 部門向けトライアルで操作するシステム構成を理解)
  - ・ 導入ハードウェアの内容(目的: 導入機器の製品内容や、配置をするために必要なサイズや消費電力を理解)

(ii) IT 部門向けトライアル実施内容の検討

IT 部門職員が自らでシステムオペレーションの実行できるように、社会保障 ICT 基盤システムトライアル版を利用した運用・保守トライアル実施の内容を次の通りとした。

- 運用（導入したシステムの通常稼働に必要な定常的なオペレーション）：次の3点におけるシステムコマンドを使ったシステム操作
  - システムの起動・停止
  - バックアップ
  - 稼働モニタリング、
- 保守（導入したシステムに突発的な問題への予防及び対応）：障害発生時の対応作業について、問題発生個所の特定方法や、障害復旧時の作業

トライアルの実施方法としては、マニュアルとチェックリストを作成し、これを用いて実施することとした。

マニュアル：

（目的）システム操作について、IT 部門職員の誰でも間違いなく実施できるようにする

（内容）システム操作方法について、操作する機器や確認するシステム画面写真や画面キャプチャを用いて詳細を記載したドキュメント

チェックリスト：

（目的）作業手順を誰もが誤らずに実施できるようにする

（内容）作業順に従い操作内容/操作後の確認内容が記載されているチェックリスト

イ) 活動1-2：トライアル版のシステムプログラム調達及び適合調査

(a) NSSF とドラフト版の適合確認

カンボジアのインフォーマルセクター制度を運営するにあたって、上記（ア）活動1-1. (a) に記載している通り、国民の登録における業務の全体像をドラフト版として整理した（全体の業務がどのように流れるのか、どのように本人を確認するのか、どのような申請書にするのか、どのように加入証を発行するのか等）。

また、これらを正確に登録するためのシステムについても、上記（ア）活動1-1. (a) に記載した通りシステムを設計した。

これらの整理した全体像をもとに作成したドラフト版がカンボジアの文化や NSSF の業務に沿っているかを確認するため、インフォーマルセクター医療保険制度の登録における業務要件について以下のような観点で NSSF 職員とディスカッションを実施した。

- 提出が必要な本人確認書類
- 登録申請書のフォーマット、申請書に記載が必要な情報
- 業務マニュアル、業務フローの書き方や記載粒度
- NSSF-ID カードの発行タイミング
- システム機能

(i) NSSF とディスカッション実施、フィードバック対応

a. 本人確認書類について

本人確認書類の提出資料は① Birth Certificate、② Residential book、③ Khmer-ID カード、④ Family book（家族登録簿）の4点を提出とするより、できるだけ最小限にしたほうが良いとの意見があったため、① Birth Certificate、② Residential book、③ Khmer-ID カード（任意で提出）とした。

b. 登録申請書のフォーマットについて

カンボジア国の文化を加味し、インフォーマルセクターの登録における申請書の単位は個人毎ではなく世帯毎とした。NSSF の世帯毎まとめて登録したいという要望に応じて、申請書のフォーマットを世帯共通の情報を記入する『図 6：申請書フォーマット（世帯の情報）』と世帯員個人の情報を記入する『図 7：申請書フォーマット（個人の基本情報）』の 2 種類の構成に変更した。例えば 3 人世帯である場合は『図 6：申請書フォーマット（世帯の情報）』を 1 枚、『図 7：申請書フォーマット（個人の基本情報）』を 3 枚、合計 4 枚の申請書を提出する。事務的な登録ミスを防ぎ正確に登録業務が進められるように申請書にチェック欄を追加で設けた。ドラフト版では支払い情報を登録する前提で整理していたが、徴収における要件は不確定な要素が多いため本事業のトライアルプログラムではスコープ外とした。

図 6：申請書フォーマット（世帯の情報）  
（提案法人作成）

図 7：申請書フォーマット（個人の基本情報）  
（提案法人作成）



c. NSSF-ID カード発行について

現行の運用では NSSF 本部・支部でその場でプラスチックカードを発行していることが判明したため、インフォーマルセクターにおける登録においても仮カードではなくその場でカード発行するとした。

d. 本事業における MOI (GDI) との連携について

インフォーマルの登録対象者を特定する際には調整には時間がかかるが、MOI (GDI) との連携をすべきだと相互理解を得た<sup>1</sup>。

a～c の NSSF 職員の意見を反映した登録における業務要件の修正結果は表 10：インフォーマルセクターの登録における要件 \_ver1 (フィードバック対応) に示す。

**表 10：インフォーマルセクターの登録における要件 \_ver1 (フィードバック対応)**

No.	決定事項	詳細
1	登録の対象者の抽出方法	・ Residential Book に登録されている世帯単位
2	登録場所	・ NSSF 支部
3	本人確認書類	・ 以下 3 点 ① Birth Certificate (出生証明書) ② Residential book (世帯登録簿) ③ Khmer-ID カード*(15 歳以上が所有する国民 ID)*任意
4	登録申請書のフォーマット	・ 世帯別の申請フォーマット ① 世帯の情報(現住所など) ② 個人の基本情報
5	カード発行	・ 登録時にその場でプラスチックカードを発行

(提案法人作成)

(ii) NSSF のフィードバックを加味したトライアル内容の詳細化

a. 登録業務における NSSF の体制の整理

社会保障制度を正しく運営していくためには、保険料の徴収記録や給付履歴などを個人に紐づけて長期間に渡り正確に管理していく必要がある。よって、制度開始時点のインフォーマルセクターの初期登録にあたっては、入力ミスと重複登録を排除した正確な情報の登録が求められる。正確な登録を目的とし次の 2 つの工程で異なる担当者がクロスチェックを行うといったオペレーションとして整理した。

- ・ 国民が記入した申請書類が正しく記入されているかのチェック
- ・ 申請書類に記載された情報が正しくシステムに入力されているかのチェック

クロスチェックの体制は図 8：(登録業務における NSSF の体制) に示す。6 つに分担した作業内容は以下の通り。

1. Document Check : 国民が記入した申請書類と証明書類を突合し、記載に漏れや誤りがないかを目視で確認。
2. Reception : 1 とは異なる担当者が記載の漏れや誤りがないかを

<sup>1</sup> インフォーマル登録対象の特定については、2017 年、2018 年の JICA 支援事業「JICA The project for Development of Social Health Insurance for the Informal Sector」のアウトプットを参考とする。一方で MOI の GDI に対して、JICA カンボジア事務所と本事業での連携について 2 度提案を実施したが GDI の局長の承認を得られなかった。

再確認した後、受付番号を発行し、1で確認された申請書類に受付番号を記入(申請書のクロスチェック)

3. Registration : 申請書に記載されている内容をシステム上で登録。
4. Check : 申請書の記載内容とシステムに登録された情報に相違がないかを確認。相違がなければ6へ、あれば5へ引き渡す。
5. Modification : 4で相違が発見された場合、システム上で入力情報を正しい内容に修正する。5の作業後、再び4に戻り確認作業を実施。
6. Final Check & Issue Cards : 1~5の作業完了後、申請書に記載されている内容とシステム上に登録した内容が一致していることを再確認(システム入力のクロスチェック)。確認後NSSF-IDを発行。

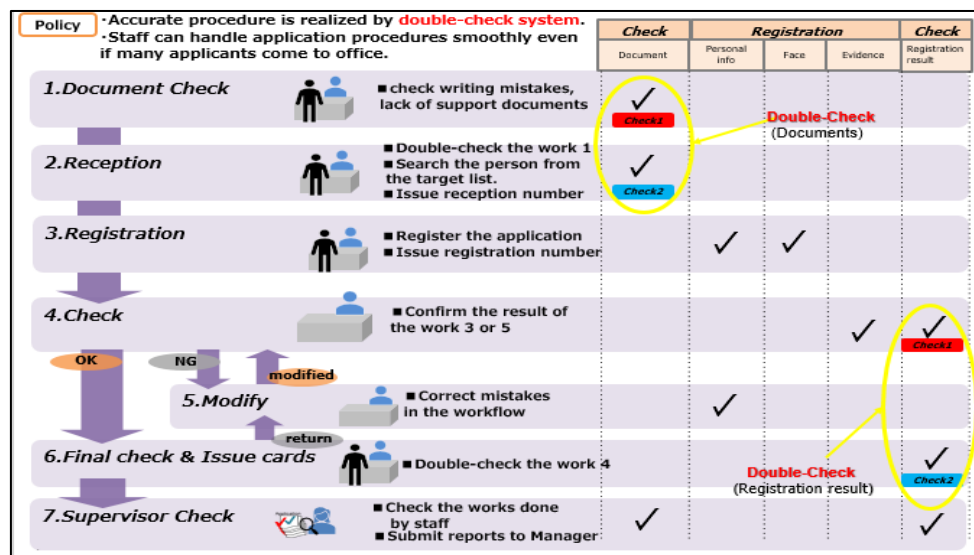


図 8 : 登録のクロスチェック体制 (登録業務における NSSF の体制)  
(提案法人作成)

- b. 社会保障 ICT 基盤システム 登録機能(Informal registration APP)のアップデート  
NSSFのフィードバックと、上記 a. で整理した登録業務における NSSF の体制に基づき、  
社会保障 ICT 基盤システムの登録機能を調整した。
  - ・ 担当毎の作業画面の分割  
Document Check や Reception、Registration、Check など担当毎に作業画面を分割した。また、登録中のデータについてはシステムでステータス管理を行えるように調整することで、必ず正しい処理プロセスで進められる仕組みとした。
  - ・ Supervisor による作業進捗管理  
Supervisor の作業画面では各担当者の作業の進捗状況が把握できる機能を用意したため、現場の状況に応じてすぐに対応するなど職員の作業管理をより簡易なものとした。

- c. トライアル用サンプルデータの作成、国内ロールプレイ実施
  - トライアル用サンプルデータの作成  
NSSF より、NSSF-ID カード(実物)、Residential Book(コピー)、Family Book(コピー)を提供頂いた。提供頂いたサンプルをもとにトライアル用に1世帯当たり3～7人のパターンでトライアル用サンプルデータと本人確認書類を用意した。
  - 国内ロールプレイの実施  
第3回現地作業のNSSF 職員とのリハーサル実施前に、国内でトライアルのロールプレイを実施し最終確認・調整を行った。

#### (b) 機器セットアップ準備

トライアルで利用する社会保障 ICT 基盤システム機器のセットアップに向けた準備としては、以下の作業を実施した。

- (i) 社会保障 ICT 基盤システム機器の設定検討
- (ii) 現地でのネットワーク不安定を考慮した作業手順の検討  
それぞれの実施内容について次に記載する。
  - (i) 機器の設定検討  
実証で利用する社会保障 ICT 基盤システム機器への設定を検討するため、ネットワーク構成設計を実施した。
  - (ii) 現地でのネットワーク不安定を考慮した作業手順の検討  
セットアップ作業においては、現地でのネットワーク不安定により必要なソフトウェアダウンロードできない等のリスクが考えられた。このリスクを解消するため、今回の環境構築ではコンテナ型仮想化技術を採用することに決定した。この技術を利用すると、社会保障 ICT 基盤システムトライアル版とその周辺ライブラリをひと固まりにしたコンテナを日本国内で作成し、このコンテナを動作させる現地のサーバへコピーするだけで動作環境が構築できる。このため、ネットワークのダウンロードが発生せず、先に述べたリスクを回避することができる。

#### ウ) 活動1-3：機材調達及び社会保障 ICT 基盤システムのセットアップ

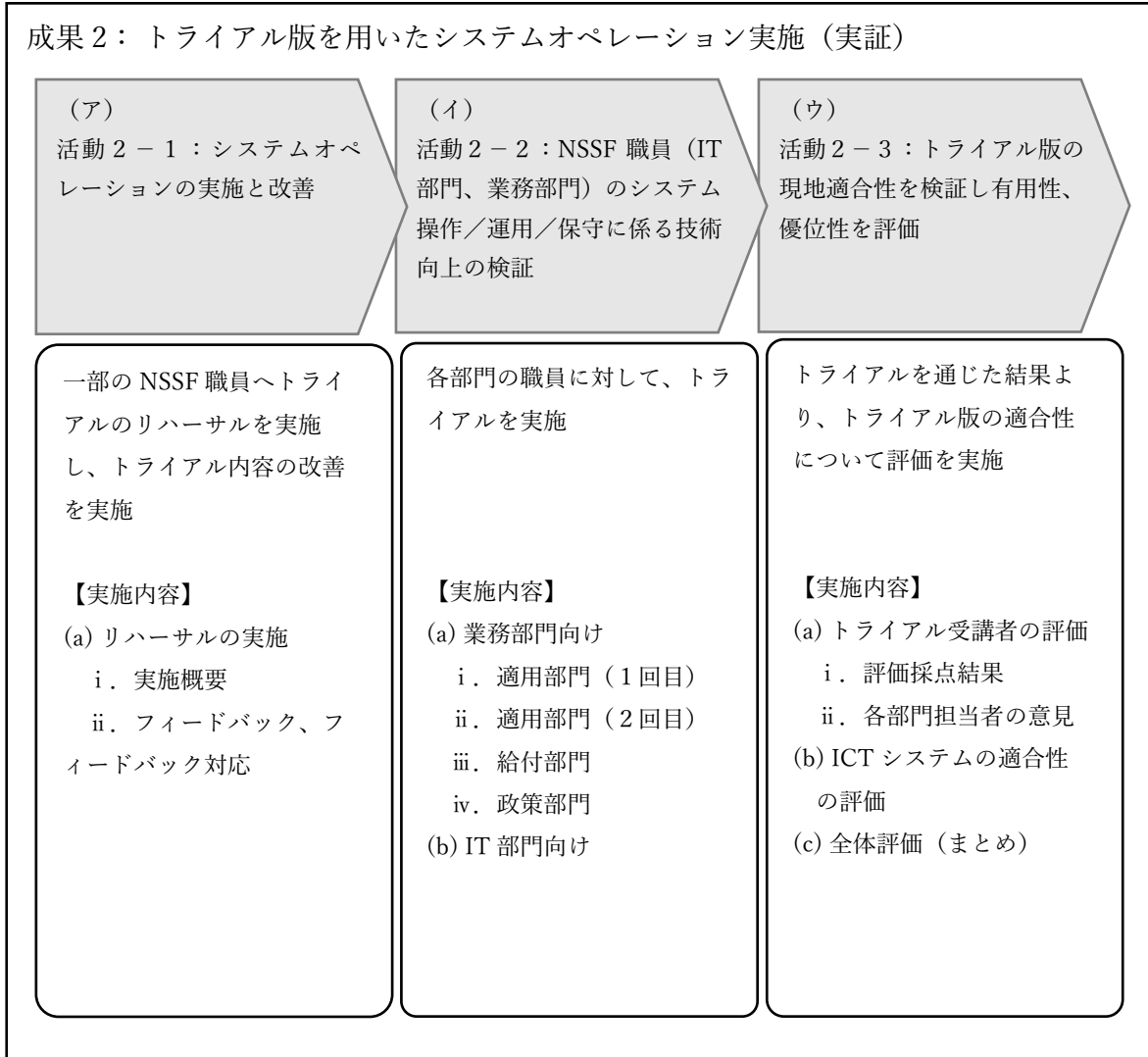
##### (a) トライアル環境の構築

- (i) システムのセットアップ
  - a. 事前確認
    - 製品出荷時検査：  
装置の物理的な検査（仕様とおりの製品が納入されているか）、機能的な検査（設計仕様とおりに稼働するか）を実施した。
    - 初期セットアップ状況の確認：  
設計どおりに機材設置に必要な工事や設備（電源、通信関係機器の接続等）ができているかの確認を実施し、製品が問題なく稼働すること、機材設置に必要な工事や設備（電源、通信関係機器の接続等）ができていることを確認した。
  - b. NSSF でのハードウェアセットアップと稼働テスト  
NSSF のサーバールームにて機材設置後、システム全体の稼働確認を実施した。電源の入力及びテスト信号が良好に入力されシステム全体として稼働できることを検査において確認した。
- c. 社会保障 ICT 基盤システムトライアル版のセットアップ  
セットアップしたハードウェア環境に社会保障 ICT 基盤システムトライアル版をイ

インストールし、動作テストを実施した。すべての機能が問題なく動作することを NSSF 及び JICA カンボジア事務所職員同席の上、検査を実施し確認できた。

②成果 2 に係る活動

成果 2 に係る活動としては、以下の作業を実施した。



ア) 活動 2-1：システムオペレーションの実施と改善

(a) 1 回目トライアルのリハーサル実施

NSSF の一部の登録部職員と 1 回目トライアルに向けてリハーサル、ディスカッションを実施した。またリハーサルで受けたフィードバックの対応を実施した。

※トライアルの対象者：IT 部門、登録部門、給付部門

(i) トライアルに向けてのリハーサル、ディスカッション

IT 部門、登録部門、給付部門の職員に対しトライアル内容を説明後、インフォーマルセクターの登録における業務要件や登録プロセスについてディスカッションを実施した。登録部門職員にマニュアルを見ながら登録アプリケーションを操作してもらいリハーサルを実施した。トライアル要件、登録プロセスについて NSSF 職員と理解・合意した。

(ii) フィードバック、フィードバック対応

- a. フィードバック：  
 多い時には約 3,000～6,000 人/日を登録しているため作業に時間がかからないようにしたいとの意見があった。  
 フィードバック対応：  
 登録作業を効率化するため、登録機能の UI デザインを改善した。  
 ・住所入力を直接入力から選択式へ変更 (Province, District, Commune 区分のみ)  
 ・撮影した写真を必要なサイズにトリムできる機能を追加  
 ・システムに表示される登録確認画面は申請書と同じ表示形式にし、比較確認しやすい画面デザインに変更
- b. 紙(申請書)を保管するにはコストがかかりすぎるため申請書を電子化して保管したいとの意見があった。申請書をエビデンスとして撮影し、システム上で保管できるように改善した。
- c. 現行の運用では指紋を取っているが子供は指紋が変わることもあるため、本事業のトライアルでは顔写真のみで実施し今後の制度運用開始時に生体情報として指紋を取るメリットを継続して検討していくこととなった。

イ) 活動 2-2 : NSSF 職員 (IT 部門、業務部門) のシステム操作/運用/保守に係る技術向上の検証

上記までの準備を受け、NSSF 職員によるトライアルを実施した。トライアルは次の通りに実施した。

表 11 : 実施した NSSF 職員向けトライアルについて

実施部門	内容					
(a) 業務部門を対象としたトライアル	(i) 登録部門	インフォーマルセクターの登録業務のトライアル 実施は以下の 2 回に分け、インフォーマルセクターの登録におけるトライアルを実施 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>第 1 回 (本部)</td> <td>全国のインフォーマルセクターを地域ごとに登録する方法</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 (本部・支部)</td> <td>トゥクトゥク運転手・家政婦などの組合 (Union) に所属するインフォーマルセクターを対象に、組合毎に登録する方法</td> </tr> </table>	第 1 回 (本部)	全国のインフォーマルセクターを地域ごとに登録する方法	第 2 回 (本部・支部)	トゥクトゥク運転手・家政婦などの組合 (Union) に所属するインフォーマルセクターを対象に、組合毎に登録する方法
	第 1 回 (本部)	全国のインフォーマルセクターを地域ごとに登録する方法				
	第 2 回 (本部・支部)	トゥクトゥク運転手・家政婦などの組合 (Union) に所属するインフォーマルセクターを対象に、組合毎に登録する方法				
(ii) 給付部門	給付のための資格確認に関するトライアル					
	(iii) 政策部門	政策検討に向けた情報の利活用についてのトライアル				
(b) IT 部門を対象としたトライアル	社会保障 ICT 基盤システムを NSSF が運用・保守するためのシステム操作のトライアル					
(c) トライアル結果の検証	上記のすべての部門に対して、トライアル実施後にアンケートを実施					

(提案法人作成)

(a) 業務部門向け

(i) 登録部門トライアルの実施(1回目)

a. 実施概要

1 回目のトライアルでは全国のインフォーマルセクターを地域ごとに登録する方法について実施した。登録部門職員は約 17 名が参加した。

トライアルにおけるインフォーマルセクターの登録要件、登録プロセス及び各ドキュメントの見方について説明後、トライアルを実施した。トライアルでは実際に NSSF 職員が 6 つの作業担当に分かれ、国民役は提案企業が担当し、用意した申請書類(サンプル)を提出する形で登録作業を約 1 時間半通して実施した。トライアル実施中に

新たな気づき等がある場合はホワイトボードに各自職員にメモ残してもらい最後にディスカッションを実施した。

b. 結果／示唆

- ・ トライアル中は提案企業から作業に対してアドバイスなどのサポートを行わなかったが、NSSF 職員自身がマニュアルを確認し業務を正確に運用することができた。また、トライアル当日に初めて参加した NSSF 職員もいたが、NSSF 職員同士でマニュアルを用いて作業を確認しながらお互いに教え合い協力し作業を進めることができた。
- ・ アンケートでは NSSF 職員から以下の評価を頂いた。  
マニュアルについて：
  - ✓ 作業の順序がシンプルでわかりやすい。
  - ✓ 作業のプロセスが詳細に記載されて良い。
  - ✓ 明確なマニュアルがあるので、全国展開できそう。社会保障 ICT 基盤システム(登録機能)について：
  - ✓ インターフェースはシンプルで明確、使いやすい。
  - ✓ 作業が各ステップに分かれていて使いやすい。
  - ✓ 登録業務が速くなるので、全国展開できそう。

c. ディスカッション

全国民を効率よく登録する方法について一緒にディスカッションを実施し、更なるブラッシュアップを行った。

例) NSSF 支部・本部での登録のみならず、NSSF 支部の窓口申請に行けない国民のために、村長やコミューン長の協力を得ながら登録のキャンペーン期間を設け、NSSF 支部の職員が各コミューンへ出張し登録する方法

d. フィードバック

- (1) マニュアルの文字・絵が小さい
- (2) システム画面の Back 機能追加 Back でシステム画面を前に戻した際も画面に入力した情報が保持されるように変更したいとの意見があった。
- (3) 入力する情報が多く時間がかかる

e. フィードバック対応

1 回目のトライアルで職員からの要望や指摘 (1)～(3)の改善結果については、オンライン会議を通じて NSSF 職員に確認した。

- (1) マニュアルの文字・絵が小さい  
マニュアルは文字や操作画面の絵や文字サイズを大きく改善した。
- (2) システム画面の Back 機能追加  
Back でシステム画面を前に戻した際も画面に入力した情報がそのまま保持された状態となり、再度入力が不要な仕様に改善した。
- (3) 入力する情報が多く時間がかかる  
登録すべき情報が多いため、情報の入力作業を簡易化するサポートや入力不備をわかりやすく表示する等 UI の改善によって登録作業を効率化する。
  - ・ 入力フィールドを選択式・入力式どちらも対応できるよう仕様に改善した。
  - ・ 入力不備がある項目にアラート表示する機能を追加し初めて操作する職員であっても感覚的にわかるような UI へ改善した。

<更に、オンラインを通じて議論した内容>

制度として登録すべき情報が多いことについては、本事業では MOI(GDI)と

の連携が叶わなかったが、将来的に MOI (GDI) の所有する国民情報との情報連携が実現可能となれば NSSF として入力が必要な情報が低減されるため、更なる登録作業の効率化が期待できることを共有した。

(ii) 登録部門トライアルの実施 (2回目)

a. 実施概要

1 回目のトライアルでは全国のインフォーマルセクターを地域毎に登録する方法をトライアルしたが、2 回目のトライアルではインフォーマルセクターの中でも組合 (Union) に所属するトゥクトゥク運転手・家政婦を対象に、組合毎に登録する方法を実施した。本部の登録部門から 5 名、支部から 1 名 (支部長) が参加した。

こちらについても 1 回目のトライアルと同様に、業務におけるドラフト版を作成し、登録部門長、IT 部門長のフィードバックを得た上でトライアルを実施した。

2 回目トライアルは当初現地で実施する予定であったが、COVID19 の影響により現地渡航ができない状況のためオンライン会議ツールである WebEx の遠隔操作機能を使用しシステム画面を NSSF 職員が操作する形でトライアルを実施した。

1 回目と同様に、登録プロセス及び各ドキュメントの見方を説明した。その後、NSSF 職員がシステム遠隔操作しトライアルを実施した。最後にトライアルに関するアンケートを取得した。

b. 結果/示唆

- NSSF 職員がマニュアルを確認しながら、システム操作し登録作業を実施することができた。
- アンケートでは NSSF 職員から以下の評価を頂いた。
  - マニュアル、業務フローについて：
    - ✓ マニュアルはポイントが明確で理解しやすい。
    - ✓ マニュアルに各作業フローに関する明確な詳細があり、理解しやすい。
    - ✓ ワークフローに従えば登録できる。
    - ✓ 一度も使用したことがない職員もマニュアルを使うことで利用できる。
  - 社会保障 ICT 基盤システム (登録機能) について：
    - ✓ 登録システムは簡単で使いやすく、時間の節約もできる。
    - ✓ 良いシステム、わかりやすく使いやすい。

c. フィードバック

- 身分証明を持たない国民の登録方法について  
移民の背景を持つ国民はカンボジアの身分証明書を持っておらず管理が難しい。このようなマイノリティである国民の登録方法の検討が今後の課題であるという意見があった。より詳細な要件については本格運用時に整理する。
- ネットワーク接続環境について  
ネットワーク接続環境が悪く音声がよく聞こえない時があった、直接会って会議したいという意見があった。4. 成果の達成状況. 成果 1: トライアル版の環境構築に記載した課題と同様、現地に赴かず遠隔で確認できる仕組みの検討が今後必要である。

(iii) 給付部門トライアルの実施

a. 実施概要

制度に沿った正確な給付を行うために、制度加入者の資格記録 (加入期間、保険料納付記録など) を確認する方法についてトライアルを実施した。給付部門職員 3 名が参加した。

まず、社会保障 ICT 基盤システムでの給付時における一連の作業方法や社会保障 ICT

基盤で被保険者のデータを一意に管理することによって、セクター間をまたぐような加入記録も社会保障 ICT 基盤システム 1 つで簡単に確認できる等、これまでの給付業務がシステムによって効率化されるポイントを説明した。

トライアルでは、『年金の給付申請』というシナリオの中で実際にマニュアルを確認しながらシステムを使う運用トライアルを実施した。

最後にトライアルに関するアンケートを取得した。

b. 結果／示唆

- マニュアルを見ながらシステム画面を操作し、各自スムーズに作業を進めることができた。
- アンケートでは NSSF 職員から以下の評価を頂いた。  
マニュアルについて：
  - ✓ 順番に表示されていてわかりやすい
  - ✓ わかりやすい社会保障 ICT 基盤システム(給付照会機能)について：
  - ✓ 加入者の情報が探しやすい
  - ✓ すべての情報が入っていて、all in one easy
  - ✓ 情報を探しやすいくて、加入者に伝えるのが簡単。

ii. 政策部門トライアルの実施

a. 実施概要

政策立案や制度改善に向けた情報の利活用（統計分析）のデモンストレーションを実施した。トライアルは、政策部門職員 6 名が参加した。

社会保障に関する情報が一元管理できることによって、全国の実態を容易に把握できるだけでなく、政策立案や制度改善に向けて情報の利活用が有益である。アニュアルレポートのような定型的な統計の出力がワンクリックでできることや、政策の策定に必要な情報を自由に組み合わせた分析が容易にできる様子を、NSSF の業務に適合した利用シーンでデモンストレーションを用意し紹介した。

b. 結果／示唆

- 社会保障に関する情報を一元管理することによって、様々な観点での統計・分析を実現し、政策レベルに活用できる情報の利活用による効果について NSSF 政策部門職員の理解を醸成することができた。
- アンケートでは NSSF 職員から以下の評価を頂いた。  
社会保障 ICT 基盤システム(統計機能)について：
  - ✓ 統計情報を管理しやすい
  - ✓ 検索しやすい、使いやすい、すぐにチェックできる
  - ✓ 問題があるときにすぐに対応することができ、将来計画と戦略を検討しやすい
  - ✓ 社会保障制度運営にあたり、まさに今すぐに欲しているそのものである

(b) IT 部門向け

a. 実施概要

IT 部門向けトライアルでは、社会保障 ICT 基盤システムの運用・保守で必要なシステム作業について、マニュアル及びチェックリストを利用して実際に導入したシステムを IT 部門職員が操作した。トライアルの 1 回目、2 回目を通じて IT 部門職員は 5 名が参加した。

システム運用のトライアルでは、参加した IT 部門の職員はマニュアルとチェックリストを利用して、システムの操作を行った。参加者全員がシステム操作を実施できる



ように、交代で実施していただいた。

システム保守に関するトライアルでは、障害対応のやり方について説明とエラー発生箇所を調査するためのシステムコマンドについて、マニュアルを参照しながら実際に職員にシステム操作を実施していただいた。

最後にトライアルや日々の IT 運用に関する内容のディスカッションを行った。

<ディスカッション内容の一例>

現状の NSSF データベースのバックアップからの復元に時間がかかっている件の相談があり、差分バックアップ機能（直前の全バックアップからの変更点だけをバックアップする機能）について説明を実施し、内容を理解していただいた。

最後にトライアルに関するアンケートを取得した。

#### b. 結果／示唆

- 運用保守に関するシステム操作を、提案企業の介助なくマニュアルを参照しながら IT 部職員が自ら操作することができた
- チェックリストについては、IT 部門職員は意図を理解し、二人がペアになり作業を実施した。トライアルの中で手順誤りは無かった
- アンケートでは以下の評価を頂いた。
  - マニュアル、チェックリストについてについて：
    - ✓ よく記載されていて見やすい
    - ✓ 誤りなく作業ができそうだ
  - その他意見について：
    - ✓ 社会保障 ICT 基盤システムの本格導入にむけてこれからも議論したい
    - ✓ 現行システムの改善を取り入れた社会保障 ICT 基盤システムについて期待している

#### ウ) 活動 2 - 3 : トライアル版の現地適合性を検証し有用性、優位性を評価

##### (i) トライアルのアンケート結果

有用性の評価は、トライアルのアンケート結果より評価した。

本事業の目的・成果は「第 3 章 1. 本事業の目的」と「2. 本事業の成果」に記載の通り、社会保障制度に加入する被保険者の情報を一元管理する社会保障 ICT 基盤システムを導入することによって、NSSF 職員自身が社会保障 ICT 基盤システムを用いて、より効率的かつ制度に従って正しく業務を実施できること、更に本事業でカンボジア政府の政策決定者の社会保障 ICT 基盤システムの有効性に対する理解を醸成し、社会保障制度運営機関職員の業務実施能力向上を目指すことであった。

本事業での成果の到達状況を定量的に測るため、各部門の職員に評価の最高点を 5 とし 5 段階評価のアンケートをトライアル実施後に評価していただいた。

登録部門については、『トライアルで実施した仕組みで職員自身によって運用できそうか?』という質問（1 回目：Q6.、2 回目：Q4.）に対して、全国民を地域毎に登録するアプローチで検証した登録部門の 1 回目トライアルの結果では 5 段階評価で平均 3.71 であった。組合（Union）に所属するインフォーマルセクター毎に登録するアプローチで検証した 2 回目トライアルの結果では平均 4.0 という評価結果であった。

IT 部門に関しては、『社会保障 ICT 基盤システムの運用についてマニュアルとチェックリストを使うことで社会保障 ICT 基盤システムの運用が効率的にできそうか?』という質問（Q1.）に対して平均 4.4 という評価結果であった。

政策部門に関しては、『社会保障の情報を一元管理することで様々な統計情報を取得することが効果的だと思うか?』という質問（Q1.）に対して、平均 5.0 という評価結果であった。そのほかにもアンケートで社会保障 ICT 基盤システムの有用性に関するポジティブな

コメントを多数いただいた。

登録部門

- ・ 支部においても業務の標準化が出来そう。
- ・ 対象者の特定方法が簡単で、システムの使い方を教えやすい。
- ・ 登録業務が速くなるので、全国展開できそう。
- ・ 明確なマニュアルがあるので、全国展開できそう。
- ・ インターフェースはシンプルで明確。使いやすい。

給付部門

- ・ 加入者の情報が探しやすくて、加入者に伝えるのが簡単
- ・ すべての情報が入っていて、all in one easy

IT 部門

- ・ (マニュアル、チェックリストに)過去の障害事例がリストされているため、すばやく確認作業及び障害対応ができる。
- ・ 新参者や新入社員もシステムの運用についてすぐに学ぶことができる。
- ・ 社会保障 ICT 基盤システムの管理がより簡単になり、社会保障 ICT 基盤システムをより効率的に運用できる。

政策部門 (統計システムの利便性について)

- ・ 検索しやすい、使いやすい、すぐにチェックできる。
- ・ 詳細情報を管理することができて、すぐに対応することもできる。
- ・ 統計情報を管理しやすい。
- ・ 問題があるときにすぐに対応することができ、将来の計画や戦略を検討しやすい。

**表 12：トライアルのアンケート結果**

No.	対象の職員	人数	質問内容	結果 (平均)
1	登録部門 (本部) ※1回目	14	Q6. 各支部への全国展開に向けて、この仕組みで実施できると思いますか。5が最もが良いとした場合にどの程度か記載してください。(1～5)	3.7
2	登録部門 (本部5名・ 支部1名) ※2回目	6	Q4. Union(グループ)ごとの登録についてこの仕組みで実施できると思いますか？5が最もできるとした場合にどの程度か記載してください。(1～5)	4.0
3	政策部門 (本部)	6	Q1. 社会保障の情報を一元管理することで、様々な統計情報を取得することが効果的だと思いますか。5が最もが効果があるとした場合にどの程度か記載してください。(1～5)	5.0
4	IT 部門 (本部)	5	Q1. 社会保障 ICT 基盤システムの運用について、マニュアルとチェックリストを使うことで、社会保障 ICT 基盤システムの運用が効率的にできそうですか？5が最も運用できるとした場合にどの程度か記載してください。(1～5)	4.4

(提案法人作成)

(ii) 評価

アンケートの結果から、NSSF 職員自身で社会保障 ICT 基盤システムを使って業務運用ができることを十分に検証できた。トライアルの検証結果をもとに政策決定者である NSPC に対して社会保障 ICT 基盤システムの有用性に対する理解を醸成することができた。

③ 成果3に係る活動

上記の成果1、成果2の結果から、社会保障 ICT 基盤システムがカンボジア国で全国民を対象

とした社会保障制度を運営していくにあたり有効であることが確認できた。この結果をもとに今後の本格導入に向けて、上位の意思決定機関に対して NSSF から申請することで合意を得た

### (3) 本事業の実施内容

※本事業における実施内容の詳細と実施結果は別添 1. 作業工程表を参照

### (4) 本事業の成果の到達状況

#### ① 社会保障 ICT 基盤システムテスト版システムプログラムの導入

※ハードウェアが導入され、そこにテスト版が構築され、現地 NSSF 職員がトライアルを実施できる状態となる

結果：第 3 回現地渡航時に NSSF のサーバールームにて機材設置後、システム全体の稼働確認ができた。

#### ② カンボジア政府の自立的制度運営のための能力向上を目的とした運用マニュアルの作成

※作成したマニュアルを用いて一部の現地 NSSF 職員に対し研修を実施し、トライアルを実施する。

結果：IT 部門、適用・給付部門の本部職員が作成したマニュアルを使って職員自身で社会保障 ICT 基盤システムを運用できることを確認できた。

## 6. 事業実施国政府機関（カウンターパート機関）の情報

### (1) カウンターパート機関名

実施機関名：National Social Security Fund（略称：NSSF）

### (2) 基本情報

- NSSF は、法務行政、公的、財政的に自立した組織であり、労働職業訓練省の技術指導と経済財政省の財政指導の下で社会部門の行政サービスを提供することを使命とする。
- NSSF は 2007 年 3 月 2 日付けの政令第 16 号 SD / PrK の規定、労働法の規定により定められた者の社会保障制度に関する法律の規定に基づき設立。

## ORGANIZATIONAL STRUCTURE OF THE NATIONAL SOCIAL SECURITY FUND (NSSF)

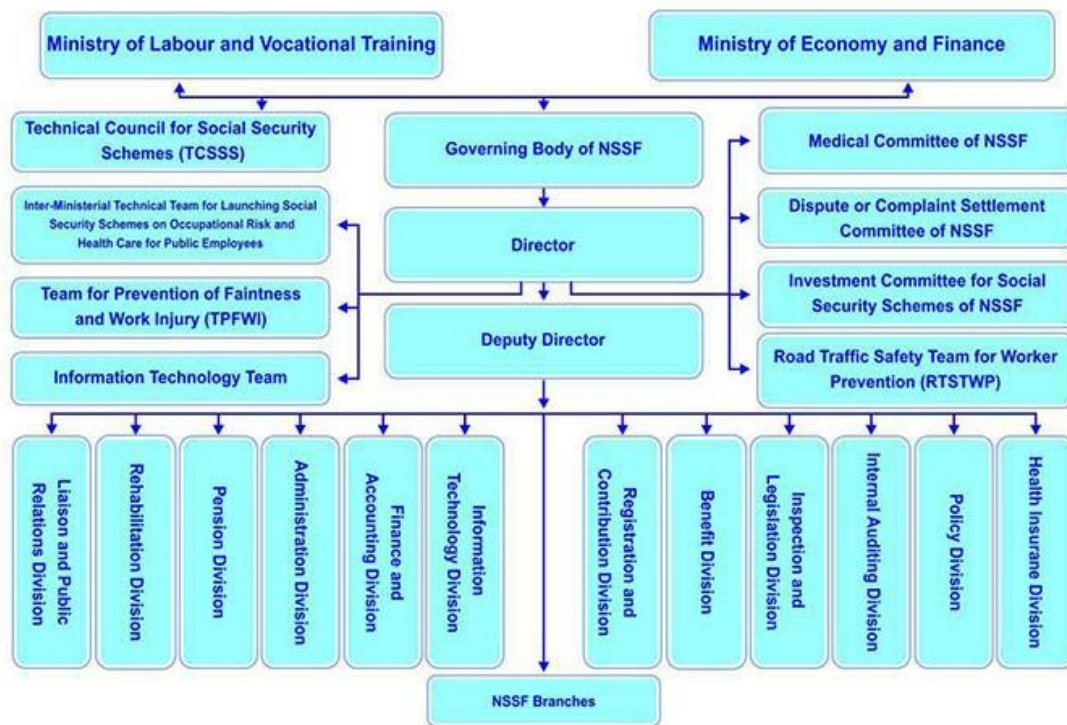


図 9 : NSSF 組織構造

出典 : 【National Social Security Fund】 <http://www.nssf.gov.kh/default/about-us-2/structure/>

### (3) 事業後の機材の維持管理体制

NSSF の IT 部門が実施。

## 7. ビジネス展開の見込みと根拠

### (1) ビジネス化可否の判断

企業機密情報につき非公表

### (2) ビジネス化可否の判断根拠

企業機密情報につき非公表

## 参考文献

- Expanding social health protection in Cambodia.  
参照先:  
[https://nspc.gov.kh/Images/Expanding%20social%20health%20protection%20in%20Cambodia%20An%20assessment%20of%20the%20current%20coverage%20potential%20and%20gaps,%20and%20social%20equity%20considerations\\_2020\\_09\\_21\\_14\\_31\\_30.pdf](https://nspc.gov.kh/Images/Expanding%20social%20health%20protection%20in%20Cambodia%20An%20assessment%20of%20the%20current%20coverage%20potential%20and%20gaps,%20and%20social%20equity%20considerations_2020_09_21_14_31_30.pdf)
- General Population Census of Cambodia 2019.  
参照先:  
[http://www.nis.gov.kh/nis/Census2019/Provisional%20Population%20Census%202019\\_English\\_FINAL.pdf](http://www.nis.gov.kh/nis/Census2019/Provisional%20Population%20Census%202019_English_FINAL.pdf)
- グローバルリンクマネジメント株式会社. (2018). カンボジア国インフォーマルセクター向け医療保険導入計画策定プロジェクトファイナルレポート. 独立行政法人国際協力機構 (JICA) .
- 対カンボジア王国国別開発協力方針.  
参照先: <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072231.pdf>
- 日本・カンボジア共同声明.  
参照先: <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000019643.pdf>

## 商標について

- Windows® の正式名称は Microsoft® Windows® Operating System です。
- その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

National Social Security Fund

Summary Report

Kingdom of Cambodia

SDGs Business Verification Survey with  
the Private Sector for ICT System for  
Social Security

February, 2022

Japan International Cooperation Agency

Hitachi, Ltd.

## 1 Glossary

**Figure 1. Definition of terms**

Terms	Description
trial	Verification to see if NSSF's operation departments and system departments can properly operate the trial version of Social Security ICT platform system to be introduced (described as 'training' in the proposal document)
formal sector	Citizens covered in insurance for private employees and civil servants
informal sector	All citizens not covered in private employee/civil servant insurance and not certified as 'ID-poor'

## 2 Abbreviations

**Figure 2. Abbreviations**

Abbreviation	Actual name
GDI	General Department of Identification
MOI	Ministry of Interior
NSPPF	National Social Protection Policy Framework
NSSF	National Social Security Fund

## **1. BACKGROUND**

The Cambodian economy has been growing at 7% annually since 2011, and its growth is essential for the stability and prosperity of ASEAN area. Currently, its economy relies on informal sector workers, who account for more than half of the labor market. Therefore, improving social security services for informal sector workers and their families is important for further economic and social development of the country. However, medical security services for them have not yet been well established, and medical expenditures are too high for them when they happen to have some health risks. To address these matters, Cambodian Government issued National Social Protection Policy Framework (NSPPF) in 2017. In this policy, the Government stated that it will establish medical insurance system for all citizens and achieve UHC. They also expressed strong intention to introduce medical insurance for the informal sectors by 2025.

To contribute to SDGs, Japanese Government stated in 2015 that it strongly promotes UHC as an international diplomatic strategy for health. And Ministry of Foreign Affairs clearly stated that it would promote to develop health care and social security of Cambodia.

In Cambodia, pensions for civil servants and work-related accidents/medical insurance for employees of private companies have already been introduced. The number of formal sector's people enrollment in the system has yearly increased, approximately 260,000 as of 2016, 600,000 as of 2017, and 1.7 million in 2019. If the social security system covers all citizens in the future, the number will be 16.3 million (2018 IMF estimate). Since covering and managing all citizens information are expected, introduction of ICT system in the early stage is necessary to realize effective operation of social security system.

At the starting point of this project, Hitachi confirmed the counterpart that they need ICT system which can accurately manage social security systems' member information. In 2020, it was determined that the counterpart will centrally manage and operate all social security systems. Therefore, introduction of ICT system is essential for them.

## **2. OUTLINE OF THE PILOT SURVEY FOR DISSEMINATING TECHNOLOGIES**

### **(1) Purpose**

Purpose of the project is to construct steady social security system in Cambodia including medical insurance for informal sectors. To realize this, create ICT planning through verification of business operation models, demonstration of proposed products and technologies, promotion of understanding of Hitachi's products and technologies, and examination of feasibility as a grant aid project. And by examining effectiveness of Social Security ICT platform which can accurately manage citizens' information, make key personnel of Cambodian Government better understand its effectiveness.



(2) Activities

Survey verifies NSSF's capacity of system operation using the trial version of social security ICT platform by following steps.

No.	Procedures	Contents	Location
1	Kick-off and detailed survey on current operation	<ul style="list-style-type: none"><li>· Share understanding on the detail of Survey with stakeholders</li><li>· Detailed survey on current operation and ICT system of NSSF for developing the trial version</li></ul>	Cambodia
2	Development of trial version	<ul style="list-style-type: none"><li>· Develop the trial version of social security ICT platform which fits to social security operation of Cambodia</li></ul>	Japan
3	Set-up	<ul style="list-style-type: none"><li>· Set up an environment for the verification</li></ul>	Cambodia
4	System operation using the trial version	<ul style="list-style-type: none"><li>· Verify users (operations division) can use the ICT system</li><li>· Verify users (IT division) can operate and maintain the ICT system</li></ul>	Cambodia/ Japan
5	Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"><li>· Report the result of Survey</li></ul>	Cambodia/ Japan

(3) Information of Product/ Technology to be Provided

Social Security ICT platform. The trial version of an ICT system which has common functions needed for operations of all social security systems and can centrally manage information about system members enrolled.

(4) Counterpart Organization

- National Social Security Fund (NSSF)

(5) Target Area and Beneficiaries

- Target area: Phnom Penh, Cambodia

- Beneficiaries: Members of NSSF's social security schemes

\* The output of Survey will contribute all the people in Cambodia, taking the start of medical insurance for informal sector into consideration.

(6) Duration

2020 September -2022 March.

(7) Goals and targets of SDGs aiming to contribute

Goal 3: “Ensure healthy lives and promote well-being for all at all age”

Target 3.8: “Achieve universal health coverage, including financial risk protection, access to quality essential health-care services and access to safe, effective, quality and affordable essential medicines and vaccines for all”

(8) Possibility of contributing to the achievement of SDGs

Cambodia needs to have ICT technology which can integrate and manage citizens information. And it is also required to handle accurate and reliable information and train human resources who can control it. Introduction of ICT system will help resolve the matters and manage citizens’ information securely and efficiently. And it will enable to centrally manage all citizens including informal sectors and understand what percentage of data should be reviewed. These will lead to contribution to the above SDGs targets.

### **3. ACHIEVEMENT OF THE SURVEY**

(1) Outputs and Outcomes of the Survey

A) Achievement status of the project

Achievement 1 : Environment set up of the trial version

- Set up the trial version of Social Security ICT platform system adaptable to Cambodia in the counterpart and confirmed all functions work properly.

Achievement 2 : System operation using the trial version

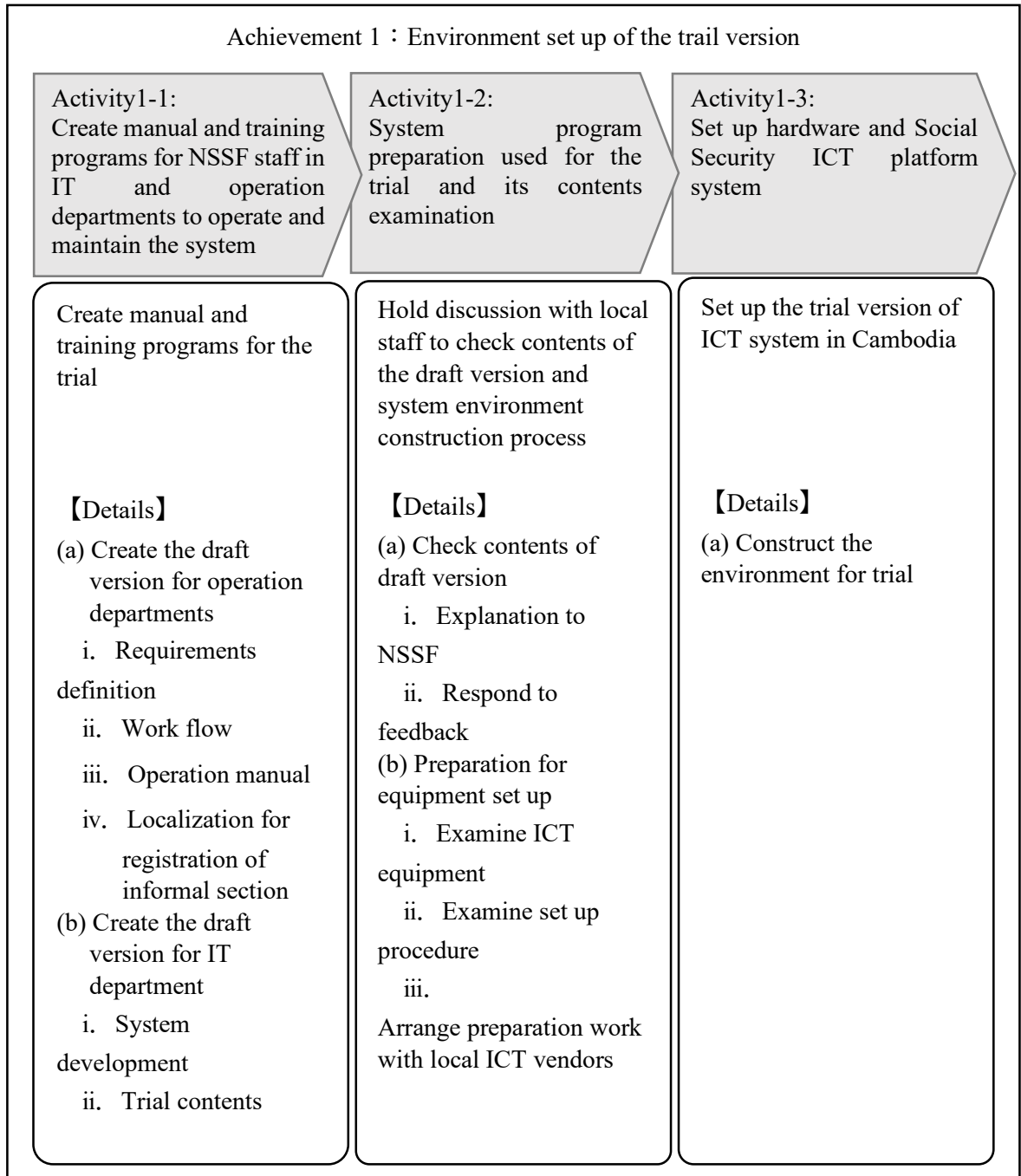
- Verified the effectiveness of Social Security ICT platform system that can accurately manage all citizens' information. And confirmed all Cambodian staff can operate the system at the same level by using the operation manual.
- Through the trial, confirmed the way to register people in informal sectors nationwide. This has proved that the project can achieve UHC.
- Made key personnel of the counterpart and its related organization better understand the effectiveness of the system.

Achievement 3 : Create business plans

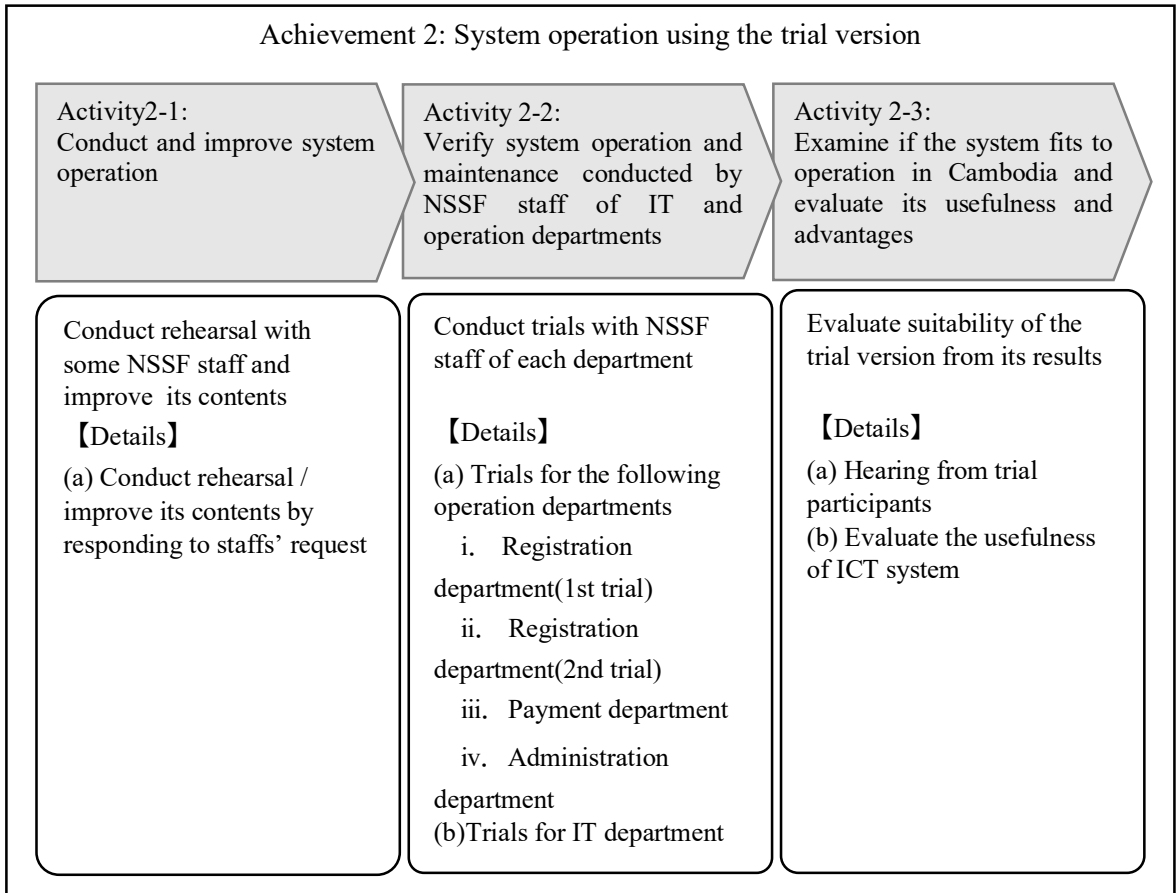
- The results of Achievement 1 and 2 above have proven that Social Security ICT platform system is effective to operate social security system for all citizens in Cambodia. With these results, the counterpart agreed to propose the full-scale introduction of the system to its related organization.

B) Contents of actual activity

i. Activities for Achievement 1



ii. Activities for Achievement 2



Below are details of Activity 2-2

(a) Trial by Operation departments

i. The 1<sup>st</sup> trial by Registration department

a. Overview

17 staff from Registration department joined and conducted registration operation for informal sector of certain areas in the country. 6 workflows were each assigned to each staff. Hitachi's people acted as Cambodian citizens and submitted application forms. The counterpart's staff proceeded them. The trial took about 1.5 hour. A discussion was held after it.

b. Results

- The counterpart's staff could conduct the works accurately by themselves without any support from Hitachi through the trial.
- The counterpart's staff answered the questionnaire like below.

About the manual :

- ✓ Workflow is simple and easy to understand.
- ✓ Work processes are properly detailed.
- ✓ Manual will be useful if the operation is expanded nationwide.

About Registration function of Social Security ICT

platform system :

- ✓ Interface is simple and easy to use.
- ✓ Each function is separated by each step and easy to use.
- ✓ Faster operation will lead to expand the system nationwide.

ii. The 2<sup>nd</sup> trial by Registration department

a. Overview

Targets of the trial were unions of tuk-tuk drivers and those of housekeepers. 6 staff from Registration department joined. The trial was held online due to COVID19. The counterpart's staff remotely operated the system using the online meeting tool, WebEx.

b. Results

- Seeing the manual, the counterpart's staff could conduct the registration operation by themselves.
- The counterpart's staff answered the questionnaire like below.

About the manual and workflow :

- ✓ Manual is clear and easy to understand.
- ✓ Manual has clear explanation on each workflow and is easy to understand.
- ✓ Registration operation can be completed by following the workflow.
- ✓ By using the manual, new staff with no experience can conduct the operation.

About Registration function of Social Security ICT platform system :

- ✓ Easy to use and saving time.
- ✓ Good system, quite easy to use and understand.

iii. The trial by Benefit department

a. Overview

3 staff from Benefit department participated. The trial was conducted to see the ways to check the qualified members records (subscription period, payment record, etc.) .

First, Hitachi explained that the system will improve work efficiency by centrally managing members information. With this, it is easy to find their information even when they change the section they belong.

In the trial, system operation was performed using the manual and the scenario called 'application for pension benefits'.

b. Results

- Seeing the manual, staff could operate the system smoothly.
- The counterpart's staff answered the questionnaire like below.

About the manual :

- ✓ Workflow is shown in order, which is easy to understand.

About payment reference function of Social Security ICT platform system :

- ✓ Easy to find members information
- ✓ All information and members payment history can be seen easily
- ✓ Easy to find information and easy to communicate with enrolled members.

iv. The trial by Policy department

a. Overview

Demonstration of information utilization (statistical analysis) was carried out for policy making and system improvement. 6 staff from Policy department participated.

Centrally managing social security information makes not only easy to see the current situation nationwide, but also useful to utilize the information for future planning and system improvement. Hitachi explained it and showed demonstration which will fit the counterpart's operation. Fixed statistics such as annual reports that can be output with one click, and analysis that easily combines information necessary for future planning were shown here as examples.

b. Results

- The counterpart's staff answered the questionnaire like below.

About statistical analysis function of Social Security ICT platform system :

- ✓ Easy to manage statistical data
- ✓ Easy and quick to search, use, and check
- ✓ Quick response can be made when some troubles happen.
- ✓ Useful to examine future planning and strategy
- ✓ This is exactly what we want for managing social security system.

(b) Trial by IT department

a. Overview

5 staff of IT department participated. They operated the actual installed system seeing the manual and checklist and conducted work required for the operation and maintenance of Social Security ICT platform system.

As one of maintenance works, they referred to the manual and executed system commands to find errors in the system.

b. Results

- Without any support from Hitachi, IT department staff could conduct the operation and maintenance works by seeing the manual.
- The staff understood the intention of the checklist and made a pair with a colleague to complete the work. There were no procedural errors thorough the trial.
- The counterpart's staff answered the questionnaire like below.

About the manual and the checklist :

- ✓ Well described and easy to see
- ✓ Seems to conduct operation without mistakes

Other suggestions :

- ✓ More discussions will be needed to prepare for introducing full-scale Social Security ICT platform system
- ✓ Looking forward to Social Security ICT platform system which includes improvement of Cambodia's current system.

Below are details of Activity 2-3

(a) Results of the questionnaire about the trial

After using the trial version of the system, the counterpart's staff answered the questionnaire to evaluate it on a scale of 1 to 5.

Regarding the question "Can staff operate the system by themselves?", Registration department staff rated 3.71 on average at the first trial, in which the way to register all citizens by each region was adopted. At the second trial, in which the way to register people in informal sectors by unions they belong was adopted, the staff rated 4.0 on average.

IT department staff rated 4.4 on average for the question "Can staff operate Social Security ICT platform system efficiently by using the manual and the checklist?". Policy department staff rated 5.0 on average for the question "Do you think it is effective to obtain various statistical information by centrally managing social security information?".

(b) Evaluation of the usefulness

The answers of the questionnaire proved that the counterpart's staff can operate Social Security ICT platform system by themselves. And the results of the trial made the counterpart and its related organization better understand the effectiveness of Social Security ICT platform system.

iii. Activities for Achievement 3

The results of Achievement 1 and 2 above have proven that Social Security ICT platform system is effective to operate social security system for all citizens in Cambodia. With these results, the counterpart agreed to propose the full-scale introduction of the system to its related organization.

(2) Self-reliant and Continual Activities to be Conducted by Counterpart Organization

The trial has confirmed the usefulness of the social security ICT infrastructure system that centrally manages information commonly used for operation of the social security system. And it also confirmed that NSSF staff at any level can operate the social security ICT platform system by using the operation manual. From these results, it is considered that NSSF can independently operate the system by continually using it even when the system and its targets are expanded and other ministry's systems are included in the social security system in the future.

#### **4. FUTURE PROSPECTS**

(1) Impact and Effect on the Concerned Development Issues through Business

Development of the Product/ Technology in the Surveyed Country

The project has confirmed that Social Security ICT platform is useful to operate social security systems for all citizens of Cambodia and contributes to the realization of the SDGs' Goal 3 and Target 3.8 and NSPPF which is a national strategy of Cambodia.


(2) Lessons Learned and Recommendation through the Survey

The project has been successfully completed with the cooperation of the counterpart organization.


In the future, further efficiency and benefits are expected by promoting information collaboration with other ministries such as MOI (GDI), which holds Cambodian citizens' information. Therefore, it is important to consider expansion of the system, its management, and the status of other ministries' systems.



## ATTACHMENT: OUTLINE OF THE SURVEY



**Cambodia – SDGs BUSINESS VERIFICATION SURVEY WITH THE PRIVATE SECTOR FOR ICT SYSTEM FOR SOCIAL SECURITY**  
Hitachi, Ltd. (Tokyo)



**Challenges in target country**


- A social security system for all citizens has not been established
- Absence of medical insurance for the informal sector
- Social security ICT system for civil servants, veterans, people with disabilities, workers, etc. are operated independently, and that is inefficient and inaccurate.

**Proposed products / technologies**

- An ICT system (trial version) that can centrally manage the information of subscribers managed by the existing social security system and the information of new subscribers subject to the new system
- Subscriber registration system

**Contents of this project**

- Contract period: September 2019 – March 2022
- Target area: Cambodia
- C/P institution name: National Social Security Fund
- Project overview:
  - To implement the system (business) operation using the trial version of the Social Security ICT Platform for the Cambodian government, which is promoting the development of the social security system and confirm the effectiveness of the ICT system. To improve the ability of local government employees to operate the social security system by providing maintenance and operational guidance.



**Social Security ICT Platform**

Work Injury, Medical, Pension

Realize multiple system operations

Centrally manage information for all people

Informal, Formal

**Business model aimed at realization**

- Introducing the official version of the Social Security ICT Platform
- Deployment of Social Security ICT platform to other countries
- Business expansion to other fields

**Contribution to challenges in target country through business expansion**

- Contribution to the realization of national strategy (social security system for all citizens)
- Contribution to the realization of an accurate and efficient social security system
- Contribution to achieving Universal Health Coverage (UHC)

Created in October 2019, Revised in January 2022

## 別添資料一覽

No.	資料名
1	別添 1. 作業工程表

工程表

案件名:カンボジア国社会保障制度運営のためのICTシステム普及・実証・ビジネス化事業  
 提案法人名:株式会社日立製作所

別添1

成 本 目 事 業 の 達	タスク			実施方法詳細		実施結果
	タスク(大項目)	タスク(中項目)	タスクごとの達成目標	実施場所	実施方法詳細 (どこで、誰に対して、何を、どれくらい、どうやるか) (現地活動/本邦受入活動日数)	
-	0 プロジェクト管理	0 プロジェクトの全体管理	計画通りにプロジェクトが遂行される	国内 現地 現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト実行状況の確認およびプロジェクト遂行に影響する課題解決に向けた判断を行う (進捗管理、懸案管理等の確認作業を週2日、半日づつ作業する)</li> <li>本事業のステークホルダと事業の全体概要とスケジュールを活用しキックオフを行う</li> <li>プロジェクト実行状況の確認およびプロジェクト遂行に影響する課題解決に向けた判断を行う</li> </ul>	COVID-19の影響を受け、履行期間を「2019年9月20日から2020年11月30日まで」を「2019年9月20日から2022年3月31日まで」に変更し、計画通りにプロジェクトを遂行した。
a	1 現地調査	1-1. 要件定義のための現地情報収集	必要な情報、業務ルール等が確認される。	国内 現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務及びデータ要件の調査をこれまでの提案にて得た情報から精査し、理解した結果と不明点を整理しヒアリング事項をまとめる(社会保障ICTシステム(トライアル版)導入に向け、現行システムの業務やデータ定義を確認)</li> <li>机上調査結果の確認と、必要に応じて現状確認やヒアリングを実施</li> </ul>	サンプルデータ、データ定義をNSSFから提供頂き、現行システムの業務を確認した。
		1-2. 導入前の環境調査	導入のための環境が確認される。	国内 現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTシステム構築に必要な機器(サーバ、ネットワークケーブル等)を検討する</li> <li>検討した結果の機器の設置可能可否を現場で確認し、必要に応じて設置場所を調整する</li> <li>現地調査結果を随時作業に反映する</li> </ul>	第1回現地活動時に機材設置場所を確認した。
b	2 社会保障ICTシステム(トライアル版)導入	2-1. システムプログラム調達	社会保障ICTシステム(トライアル版)のプログラムが調達される	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会保障ICTシステム(トライアル版)の調達に関わる事務作業、調達の手配を実施する</li> </ul>	社会保障ICTシステムのプログラムを調達した。
		2-2. システムプログラムの適用調査	現地業務へ適用するためのプログラム設定内容が整理される。	現地 現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地業務の調査を行い、システムプログラムの適用範囲の整理を行う</li> <li>他省庁連携の可能性調査のため、GDIの保有するデータを活用した作業の確認を行う</li> </ul>	NSSFにヒアリングを実施し、本事業で検証する機能を整理した。
c	3 ハード導入	3-1. 機材調達	導入に必要な機材が調達される。	国内 国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>1-2の検討結果を基に導入機器のリストを作成し、調達に関わる事務作業、調達の手配準備を実施する</li> <li>作成したリストに従い、機材を調達する</li> </ul>	導入に必要な機器のリストを作成し、調達を実施した。
		3-2. ICTシステムの設置	ICTシステムがNSSF本部にセットアップされる。	国内 現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>3-1で調達した機材の設置作業を整理し、現地での作業手順書を作成する</li> <li>作成した設置作業手順書に従い、NSSF本部に機器をセットアップし、起動確認を行う</li> </ul>	作業手順書を作成し、NSSF本部のサーバールームに機器をセットアップを実施した。
		3-3. ICTシステムの現地テスト	ICTシステムがNSSF本省内でテストされる。	国内 現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>3-2でセットアップした機材にICTシステムを導入し、その稼働確認を行うための確認リストを2-2の調査結果を用い作成する</li> <li>2で調達したICTシステムを導入する</li> <li>作成した確認リストに従い、導入したICTシステム稼働確認を行う</li> </ul>	稼働確認リストを作成し、セットアップした機材にインストールしたICTシステムが問題なく稼働できることを確認した。
		3-4. 撤去作業	引き継ぎ資材以外の撤去	現地	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約内容に従って、引き継ぎ資材以外を撤去する</li> </ul>	-
d	4 運用マニュアル等作成	4-1. IT部職員向けシステム運用訓練(1回目)の準備	訓練に必要なマニュアルおよび資料が作成し、講師を決定する。研修プログラムが作成される。 1回目トライアルの日程及び会場が決定する。	国内 国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT部職員向けシステム運用マニュアル作成および訓練計画の策定</li> <li>運用訓練の対象者を調整し、会場に向けた調整を行う</li> </ul>	ICTシステムの運用・保守作業の研修プログラムを作成し、トライアルで使用するマニュアル及びチェックリストを作成。NSSF IT部門の職員を対象に、NSSF本部のサーバールームでトライアル実施することが決定した。
		4-2. 窓口職員向けシステム操作訓練(1回目)の準備	訓練に必要なマニュアルおよび資料を作成し、講師を決定する。研修プログラムが作成される。 1回目トライアルの日程及び会場が決定する。	国内 国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口職員向けシステム操作訓練マニュアル作成および訓練計画の策定</li> <li>運用訓練の対象者を調整し、会場に向けた調整を行う</li> </ul>	インフォーマルセクターの登録業務、給付業務及び政策立案に有益なICTシステムの機能(統計分析)の研修プログラムを作成し、トライアルで使用するマニュアル、業務フロー及びデモンストレーションを作成。NSSF 登録部門(本部)、給付部門及び政策部門の職員を対象にNSSF本部でトライアル実施することが決定した。

工程表

案件名:カンボジア国社会保障制度運営のためのIGTシステム普及・実証・ビジネス化事業  
 提案法人名:株式会社日立製作所

別添1

成本 目 事 業 の 達	タスク			実施方法詳細		実施結果
	タスク(大項目)	タスク(中項目)	タスクごとの達成目標	実施場所	実施方法詳細 (どこで、誰に対して、何を、どれくらい、どうやるか) (現地活動/本邦受入活動日数)	
e	5 1回目のトライアル実施	5-1. IT部職員向けシステム運用訓練の実施	IT部職員が基本的な運用保守を行えるようになる。	国内	・4-1.で作成したシステム運用マニュアルの詳細精査および予行練習	運用保守に関するシステム操作を、提案企業の介助なくマニュアルを参照しながらIT部職員が自ら操作できることを確認した。
		5-2. 窓口職員向けシステム操作訓練の実施	窓口職員が基本操作を行えるようになる。	国内	・4-2.で作成したシステム操作訓練マニュアルの詳細精査および予行練習	
f	6 運用マニュアル等修正	6-1. IT部職員向けシステム運用訓練(2回目)の準備	訓練に必要なマニュアルおよび資料を修正する。講師が特定される。研修プログラムが作成される。  2回目トライアルの日程及び会場が決定する。	国内	・5-1.の結果を受けて、IT部職員向けシステム運用マニュアルおよび訓練計画を修正	1回目のトライアルで使用したICTシステムの運用・保守作業のマニュアル及びチェックリストを修正した。NSSF IT部門の職員を対象に、オンライン会議ツールを利用し実施することが決定した。
				国内	・運用訓練の対象者を調整し、会場に向けた調整を行う	
		6-2. 窓口職員向けシステム操作訓練(2回目)の準備	訓練に必要なマニュアルおよび資料を修正する。講師が特定される。研修プログラムが作成される。  2回目トライアルの日程及び会場が決定する。	国内	・5-2.の結果を受けて、窓口職員向けシステム操作訓練マニュアル(英語版)作成および訓練計画の策定	1回目トライアルの結果を反映したインフォーマルセクターの登録業務の研修プログラムを作成。トライアルで使用するマニュアル、業務フローを作成。NSSF 登録部門(本部・支部)の職員を対象にオンライン会議ツールを利用し実施することが決定した。
				国内	・操作訓練対象者を調整し、会場を手配に向けた調整を行う	
g	7 2回目のトライアル実施	7-1. IT部職員向けシステム運用訓練の実施	IT部職員が基本的な運用保守を行えるようになる。	国内	・6-1.で作成したシステム運用マニュアルの詳細精査および予行練習	運用保守に関するシステム操作をマニュアルを参照することにより、IT部職員が自ら操作できることを確認した。
				現地	・GDIの保有データに関するデータ整備を実施する	
		7-2. 窓口職員向けシステム操作訓練の実施	窓口職員が基本操作を行えるようになる。	国内	・6-2.で作成したシステム操作訓練マニュアルの詳細精査および予行練習	適用業務に関するシステム操作を、提案企業の介助なくマニュアルを参照しながら登録部門の職員が自ら操作できることを確認した。
				現地	・窓口職員に向けたシステム操作訓練の実施	
7-3. 運用マニュアル等修正	2回目のトライアルを受けてマニュアルおよび資料を修正する。	国内	・7-1、7-2.の検討結果を基に運用マニュアルを修正	マニュアルの文字を見やすいサイズに修正した。		

工程表

案件名:カンボジア国社会保障制度運営のためのICTシステム普及・実証・ビジネス化事業  
 提案法人名:株式会社日立製作所

別添1

成本目 事業 の 達	タスク			実施方法詳細		実施結果
	タスク(大項目)	タスク(中項目)	タスクごとの達成目標	実施場所	実施方法詳細 (どこで、誰に対して、何を、どれくらい、どうやるか) (現地活動/本邦受入活動日数)	
h	8 現地でのIT部門、業務部門のトレーニング	8-1. 国内での対応窓口	顧客のICTシステム利用時の不明点を解決する。	国内	・問合せに対する調査及び回答の実施	全国民に向けた社会保障制度を運営する上で最適なNSSF-ID体系や、登録時における重複チェック運用イメージについてなど、今後の具体的な運用に関する質問に回答した。
		8-2. フィードバック対応	現地でのトレーニング結果を基に、要望をマニュアルに取り込む。	国内	・トレーニングの上で顕在化した重要な点については、マニュアルおよびトライアル版を修正	
i	9 本邦招聘	9-1. 本邦研修の準備	本邦招聘プログラム及び関連組織や講師が決まる。	国内	・本邦招聘プログラム、案内先の訪問合意および講師との合意などを実施する。またロジ手配なども実施する	—
		9-2. 本邦研修による日本の社会保障制度の紹介	本邦招聘対象者が日本の社会保障制度を理解する。	国内	・研修内容を説明し、同意を得る	—
		5-3. 登録に関する説明会開催	説明会が開催され、参加者のICTシステムに対する認知度が向上する。	国内	・招聘プログラムに従ったアテンドや、弊社個別の説明会などを実施することで、現地における課題解決の方向性を共有する	—
		5-4. ICTシステム本格導入にむけた文書の取り交わし	本格導入にむけた文書が取り交わされる。	国内		—
		9-3. 政府関係者へのプレゼンテーション	政府関係者に対するICTシステムの認知度が向上する。	国内	・社会保障ICTシステムの最終像による制度や業務遂行をイメージしたプレゼンテーションを作成する	—
				国内	・社会保障ICTシステムの最終像による制度や業務遂行をイメージし、政府関係者にプレゼンテーションを実施する	—
				国内	・ビジネス規模、想定できる運用費および現地ビジネス体制など事業計画を実現するために必要な情報収集観点を整理する	再委託調査によるビジネス化に関する現地法令調査を実施した。
				現地	・整理した情報収集観点により、事業実施の中で聞き取りや視察などを実施し、政策や今後の動向に関する情報を獲得する	
		現地	・整理した情報収集観点により、事業実施の中で聞き取りや視察などを実施し、ビジネス化に関する情報を獲得する			
j	10 事業計画案の策定報告書の作成、実施	10-1. 事業計画案作成のための情報収集、調査	事業計画案策定にあたり必要な情報が確認される。	国内	・収集した情報を分析し、事業計画案の策定を行う	本事業や現地調査を通じた活動結果に基づく、本JICA事業後の妥当なビジネス展開の計画を策定した。
		10-2. 事業計画案の策定	事業計画案が策定される。	国内		
		10-3. 報告書(進捗報告書、最終報告書ドラフト、最終報告書)の作成、実施	報告書が提出される。報告が実施される。	国内	・事業推進の進捗報告および結果整理や分析を行い最終報告書を作成する	全活動結果の報告書を作成した。報告を実施した。
				国内	・JICAへ事業結果の最終報告を実施する	
				現地	・NSPC,NSSFへ事業結果の最終報告を実施する	

工程表

案件名:カンボジア国社会保障制度運営のためのIGTシステム普及・実証・ビジネス化事業  
 提案法人名:株式会社日立製作所

別添1

成本 目 事 業 の 達	タスク			実施方法詳細		実施結果
	タスク(大項目)	タスク(中項目)	タスクごとの達成目標	実施場所	実施方法詳細 (どこで、誰に対して、何を、どれくらい、どうやるか) (現地活動/本邦受入活動日数)	
k	11 外部人材による業務支援	11- インフォーマル医療保険制度の整備	制度に関する報告書が提出される。ディスカッションなどを通じ報告が実施される。	現地	・制度や方針における 関係者ファシリテート ・現地動向(意思決定機関等)の最新の情報を入手する	インフォーマルセクター向け医療保険導入計画策定プロジェクトの調査結果に基づき、ディスカッションを実施した。
				現地	現地の意思決定機関や制度運営機関の最新の同行/情報を入手する	
				国内	・保険加入等に関して想定される業務について情報提供・ディスカッションを行う	
				国内	自治体、NSSF本部、支部など、その他各種オペレーションにおいて、役割と運営方法について情報提供・ディスカッションを行う	
				国内	・提案企業が策定した事業計画について観点の網羅性などの検証を行う	
				現地	・提案企業が策定した事業計画について現地政府の動向と併せた検証を行う	
		11- 事業計画策定に向けたファシリテーション	報告書が提出される。報告が実施される。	国内	・現地動向を踏まえて事業計画見直しのポイントを洗い出す	NSSF,NSPCIにヒアリングを実施し、本格導入に向けた課題や現地政府の動向に併せた事業計画策定におけるポイントを報告頂いた。
				現地	・再度事業計画について現地政府の動向と併せた検証を行う	
				現地	・本格導入に向けた関係省庁のファシリテートを実施する	
				国内	・本格導入に向けた課題や対策等を洗い出す	
				現地	・本格導入に向けて、課題や解決策などを踏まえた関係省庁のファシリテートを実施する	
				国内	・本邦招聘後の現地カウンターパートに対し、日本での政策の知見を活かした課題や対策を洗い出す。	